

労働者に檄す



ラッサル
岡田 忠

366.04
cL34r
0
00574209

×
複写

革命家演説集 III



B-2229

ラッサルレ著
岡田忠一譯

労働者に檄す

東京白揚書館

366.04
OL34A
0



574209

ラッサレーの生涯

譯者

ラッサレーは近代社會主義創始者の一人にして、一八二五年プレスラウで猶太人の家に生れ、一八六四年八月三十一日フォン・フヴィツア伯と決闘して死んだ。彼の生涯は正義の戦の爲めに捧げられて遂に其の幕を閉じた。之を猶太人の特性であると評するものがある。(ラボボルト著「露西亞革命の先驅者」参照)。彼の父は金持の商買人であつたので、ラッサレーを實業界に出さうとしたが、彼の性格は父の希望を峻拒した。而して専心プレスラウとベルリンで哲學の研究に沈潜した。其の後彼は巴里に來り、有名なる詩人ハイネと相知り、相語るの機會を得た。ハイネは或人に送つた書翰の中でラッサレーを評し神童(ヴンデルキンド)と云つて居る。其後彼はベルリンに歸還し、其處でハッツフェルト伯爵夫人(當時のヘレン嬢)と面接したのである。

ラッサレーは一八四八年の革命、即ちフランクフォルトの國會召集、其の失敗より起つたブルジョア革命に關與してゐた。けれども彼が一大決心の臍を固め、從來の自由主義運動、進歩黨の

微温的改造手段では到底無産者の幸福を得られるものでないと強調し出したのは一八六二年のことである。であるから彼の眞の社會主義的運動は一八六二年から初めて着手されたと云つてもよい。併し、其の活潑なる活動も僅かに二年しか繼續されなかつた。其れはラツサレーが自己の意志によつて社會主義運動の舞臺から退場したのではなく、突然彼の頭に振り罹つて來た災厄、彼の豫期せざりし死が、彼をして此の運動を中絶せしめたのである。死の影は若きラツサレーを捕へて幽瞑の國に送り、獨逸社會主義運動は其の華々しき戦士を永久に失つてしまつた。

ラツサレーが渦中に身を投じた當時の獨逸社會運動は、所謂ブルジョア革命運動に外ならなかつた。自由主義者は目的を達する爲めに労働者を自分の味方に引き付けて置く方が強味であることを夙に悟つてゐたから、信用組合、消費組合等の機關を作つて労働者の歡心を満足させ、斯うした靈藥によつて労働者の精神を魔睡させてゐたのである。此の常識社會改造主義の半耳を執つてゐたのはシュルツェ・デリツシであつた。

ラツサレーは此の妄想に反對して蹴起し、奮闘した。而してブルジョア經濟及其政策、其れを出發點とした社會、國家制度の改善に就て一步も呵責する處なく鋭利な解剖批判のメスを振つ

た。此等の靈藥主義者に對して、彼は「賃銀制度は労働者の足を縛す鐵則である、此の鐵則を切斷しない限り労働者は永遠に資本家の足元に土下坐してゐなければならぬ、人類の多數を占めてゐる無産者、社會の支柱を成してゐる第四階級は自由人となることは出來ぬ」と説破した。

ラツサレーの主張は、當然茲に實行のプログラムを生ますには置かなかつた。彼は此のプログラムを、合法平和の手段に依つて實現せんと焦慮したのである。其のプログラムを分析すれば、(一)ブルジョア政黨から獨立して労働階級独自の政黨を樹立すること。(二)普通選舉の達成を期すること、(三)労働階級自身の生産組合を作り資金は國家から仰ぐこと。等であつた。

ラツサレーは若かつた、赤い血は彼の五體に漲り熱情は迸つてゐた。而して其の熱情は、正義の焰となつて燃え上つた。彼は彼独自のプログラムをひつさげ、労働運動の闘争場裡に姿を現したのである。彼の口から、彼の筆端から、ほどばしり出る賃銀鐵則の原理は、直ちに労働者の魂を把えて仕舞つた。だが、それよりも人を動かしたものは若人の魅惑的な態度と秀麗なる人格と熱烈なる雄辯とであつた。

雄辯！ 社會運動家にとつて是れ程強力な武器はない。ラツサレーは模範的な雄辯家であつ

た。彼は雄辯家に無くてならぬもの、即ち若さと熱情と信念とを持つてゐた。亦、其の雄辯を空虚な火花に終らせないだけの聰明と社會的理解とを備へてゐた。従つて茲に譯出したラッサレーの演説集は彼を知る爲の貴重な資料である。唯慥むらくは私の拙譯がラッサレーの偉大な雄辯を満足に傳ふる事が出来たか如何か、頗る懸念に絶えない。

ラッサレーが労働階級の將來に爲す可きプログラムを初めて發表したのは、一八六二年四月十二日であつた。「労働者は中世紀に於ける地主、近代社會に於ける資本家の地位に坐らねばならぬ。彼等は社會を左右するの威力を把持してゐるけれども、其れは彼等自身の利益を擁護する爲に使用されるのであつて、全人類の幸福を考慮する迄に至つてゐない。其處で労働階級は彼等に變つて、人類全體の進化に奉仕しなければならぬ」と叫んだ。

ラッサレーの主張に依ると、國家の目的は個人の自由、私有財産を保證しただけでは末だ其の使命を完全にはたしたものと云へない。國家の使命は個人を結合して國家たらしめ、此の國家と云ふ制度に基いて各個人が獨立して獲得し得ざるものを獲得しなければならぬと云ふのである。國家最終の目的は人間生活の進歩發展を謀るにある。國家の機能は人間の優秀なる美點を完

成するにある。人間性が完成し得る文化を充分、完全に發揮するにある。人間を自由の地位に置き、以て人類の進化をまつたからしむるにある。此れがラッサレーの國家觀念であつた。

然し乍ら、彼は要するに學理、學説の創始者ではなかつた。然し勇敢なる實行家であつた。故に彼の主張はルイ・ブラン、ブルードン、ロドウベルトウス、殊にカール・マルクスに負ふものと云つても不當ではあるまい。彼を學理の方面から見たならば、其處には幾多の缺點、非難があるかも知れない。缺陷、非難がないとしても學理のオリジナリティーを彼の主張の中に發見することは出来ぬであらう。けれども彼が實際方面に成しとげんとした活動——早生の爲めに成しとげなかつたけれども——は大に尊重していゝと思ふ。徒らな偏見の下にラッサレーをくさして仕舞ふことは餘りに残酷である。換言すればラッサレーは筆の人ではなかつた、學究の徒ではなかつた、書齋の裡に後代に遺す可き學説を編み出す人物ではなかつた。むしろ街頭に立つて叫ぶ人であつた。大衆の前に立つて大衆の行く途を照らす人であつた。けれども彼は決して學理に對して迂遠暗愚な頭腦の持主ではなかつた。不明瞭な學説、理想主義に墮した學理、現在に適合せざるユートピヤの中から實際に適用し得る純正なる理論を發見し、其の上に彼の現實的活動は基礎付けられて

あるのである。であるから彼を理論のない實際家と目するのは正鵠を得たものではない。(ラヴエ
レー著、「現代の社會主義」四十二頁参照)。

マルクスとラツサレーとは其の主義の上に於て相反するものではなかつたけれども、其の政策
に於て異なる處があつた。ラツサレーは労働運動に重きを置き、マルクスは社會革命運動の立場に
あつた。ラツサレーは労働者を組織體にすることには努力したが、暴力革命に加盟するものでは
なかつた。彼の社會主義は國家社會主義であつた。一八六七年マルクスが「資本論」を著して以來
マルクスを奉ずる者とラツサレーを信ずる者との間に激しい論争が行はれた。

ラツサレーの生涯は、彼の悲劇的な死に依つて、突然閉ざされて了つた。彼は貴族の娘、ヘレ
ン・フォン・デニガスと戀に落ちた。けれども彼女の父は、社會主義の猶太人に嫁することを拒
んだ。娘はラツサレーのもとに逃れんとしたが、ラツサーは兩親の承諾を得て正式に結婚するこ
とを勧めた。娘は其れに不満を抱いてゐた處へ、兩親に壓迫されてフォン・ラコヴィツアと婚約す
ることになつた。若くして熱情家のラツサレーは、是れを聞いて黙してゐるわけにはゆかない。怒
りと失望の餘り此の革命家の猶太人は娘と父と新たなる婚約者に對して決闘を申し込んだ。忽ち

ラコヴィツアとラツサレーとの間に起つた決闘は、不幸にしてラツサレーの負傷に終つた。しか
もラツサレーは其の負傷の爲に遂に不歸の客となつた。時に年齢四十歳。

昭和三年五月十九日

岡田忠一誌す

ラッサレーを評す

アルトマイエル

近代獨逸労働運動の冒頭にラッサレーは毅然として立つてゐる！

彼は劍であつた。焰であつた。フロリアン、ゲイエルに就てゲルハルト・ハウプトマンが云つた言葉は、労働無産階級の最初の指導者たるラッサレーを評する言葉に、恰度あてはまつてゐる、「熱烈なる権利の觀念は彼の脈管に流れ流れてゐる」と。然り、ラッサレーの燃ゆるが如き正義感、フイヒテー、ヘーゲルの道を通つて、カール、マルクスの領域にまで進んで行かせ、獨逸労働者の先醒者たらしめ、無産階級解放運動の最も猛烈なる警告者たらしめたのである。

ラッサレーはプロシヤ人でも、ババリア人でもない。彼は獨逸人であり、猶太人である。且、亦、革命主義者である。其の當時是の三つの屬性はモーゼル、(註一)メーメル、(註二)兩河の地域に生れた者にとつては、甚だ都合が悪かつた、而してさう云ふ人間は此の地域以外には動くことが出來ず其處で働かねばならなかつた。ラッサレーの執つた政策及戦術の一部分が、我々には恒に親しみ

がなく縁が遠い、様に思はれてるのは、多分此の爲であらう。併し茲で我々は長い間の論題となつてゐる此の問題に就て議論をしやうとするのではない。我々はマルクスとエンゲルスがどう云ふ風にラッサレーを判断してゐたかと云ふことを知つてゐる。併し此の批判に就ては「共産黨宣言」の執筆者も、やゝともすれば其の判断を誤つてゐる。フランツ、メーリング（註三）は此の問題に就て徹底的に論じ盡してゐる。尤も、カール、マルクスさへもラッサレーの死後、ハッツフェルド伯爵夫人（註四）に送つた書翰中で、次の様な文句を聯ねラッサレーの效績を承認してゐる。「ラッサレーの偉大な點を正しく評價するのには、私が材料を澤山持ち合はせてゐるから誰よりも一番適してゐると、貴方が言はれましたが其れは全く本當です……併し彼を評價する私の材料を離れて考へて見ると、個人的には私はラッサレーを愛してゐますが、不幸にして我々は相互に愛情を明白に露しませんでした、恰も我々は永久に死なないものゝ様に」。カール、マルクスはジェ、ビー、フォン、シヅワイツェル（註五）に書き送つた手紙の中で、「ラッサレーが其の宣傳運動中にとつた戦略は間違つてゐたとしても、獨逸労働運動を十五年間の眠りから呼び覺した點に於てラッサレーは偉勳者である」と云つて賞讃してゐる。

（註一） モーゼル河。佛蘭西の東方、獨逸の西方にある河。コブレンツルに於てライン河と合す。

（註二） 戦争終末まで、即ち一九一九年まで獨逸東部の國境を劃せる河。其の河口はバルチック海に面す現在にはリトウアニア領に編入さる。

（註三） フランツ、メーリング（一八四年——一九一九年）獨逸革命社會主義者にして歴史家。「獨逸歴史に現れたる社會力」「獨逸社會民主黨史」「カール、マルクスの生涯」等の著述あり。

（註四） ハッツフェルド伯爵夫人。ソフイーと稱す。（一八〇五年——一八八一年）。一八二二年ハッツフェルド伯爵と結婚したけれども一八五一年離婚す。ラッサレーと彼女との交友は甚だ親密であつた。

（註五） シェー、ビー、フォン、シユワイツェル（一八三三年——一八七五年）獨逸社會主義者。「社會民主黨誌」の編輯者。同誌は一八六五年一月一日より發刊さる。

フランツ、メーリングはその著「獨逸社會民主黨史」の中で（第二卷二四八ページ）ラッサレーと彼の「誤謬」と云ふ問題に關して、最も適確な評論をこゝろみてゐる。

「ラッサレーは「共産黨宣言」の中で云ふ意味の共產主義者で、しかも其れを確信してゐた。ラッサレーには多くの間違と誤算があつたが、其れは「共産黨宣言」中の經濟觀念を實際に應用する

前に、法律的な哲學的な觀念に解釋して仕舞つたからである。獨逸の古典哲學が主張する國家崇拜はロドウベルトウス(註)の手に依つて一徹な形式論になつたが、さすがにラツサレーは無産者階級闘争を理解してゐたから、其れ程の間違ひは起さなかつた、併しラツサレーは全く思想上理想主義を放棄したと云ふわけではなかつたから、國家禮讚を廢することは出来なかつた。彼は經濟的よりも法律的、哲學的基礎の上に立つた方が遙かに安全であると考へた。彼は此の問題に就て實際的な獨立の研究をしなかつたと云つたら云ひ過ぎるかも知れないが——彼は或程度迄此の方面の研究をやつた。此の方面に於けるラツサレーの研究はなれば實際的で、有效なものであり、御歴々の學者が澤山ある大學でもラツサレーの仕事の研究すれば充分の材料がある。併し彼の思想上に於ける理想主義が往々にして彼の行く手を阻害したので、マルクス或はエンゲルスの主張をすつかり呑み込むと云ふわけに行かなかつた。ラツサレーは争闘の必要に迫られて、手近かの武器を取つた。即ちレッシングの古き理論に追従したのである。「壁を測る人間は梯子を作つた男ではなくして梯子を登る者である、不安定な梯子でも、大膽にして敏捷な、間を乗せることが出来る。」

ラツサレーは劃時代的な社會主義の理論家ではないとブルジョアの經濟學者は云ふ。然り、是れは正當な議論である。暗い處で満足してゐる是等の土龍も、太陽の光で物を見る眼は持つてゐる。

(註) カール、ロドウベルトウス(一八〇五年——一八七五年)。獨逸經濟學者。カール、マルクスの大著述「資本論」と同名の「資本論」なる著述がある。ブハーリン著「中産階級の經濟理論」を参照。

ラツサレーの理想主義は彼の弱點である。けれども、亦一方から見れば彼の力にもなつてゐる。ラツサレーは此の理想の力で、岩をも砕く確信を持つた。此の確信があつたればこそラツサレーはかゝる結果を生むことが出来たのである。ラツサレーは近代ブルジョア社會の進化の法則を、マルクス及エンゲルス程深く痛切に感じてゐなかつたと云ふ事實は、前もつて云つて置く必要がある。左様な缺點があるけれども、他の一面に於けるラツサレーの歴史的重要性を、そのやうな方法で測らんとするは、間違ひである。かゝる方法は學校の教室で歴史問題を討論するのと變りがない。かゝる討論は歴史學上の缺點を探がせばいゝ丈けだからである。凡ての歴史上の人物を評するのには其の人が持つてゐる歴史學的周圍關係を考慮して、歴史的に判断を下す可きである。全く異つた歴史的條件の下に成長したマルクス及エンゲルスと、ラツサレーと比較して見るのに、

或る意味に於てラッサレーは此等の二人の人物に蹴落されてるかの観がある。ラッサレーの生涯が此等の二人の生涯よりも猶暗暝な色彩にとざされてゐると云ふのが、其の一つの理由であつた。然しもし我々がラッサレーと同じ境遇にあつた同時代者、乃至は猶一層恵まれた境遇に置かれてゐた同時代者と、彼とを比較して見れば、譬へば哲學界に於ける若きヘーゲル學徒、經濟學界に於けるロドヴベルトウス政治界に於けるヨハン・ヤコビー（註）とを比較すれば、ラッサレーは中から云つても高さから云つても非常な大きな仕事をしてゐる。ラッサレーは此等の人々と共通した世界觀を持つてゐたけれども、彼は其の一方に科學的共產主義の眞諦に徹する丈けの力を持つてゐた——しかも他の人々は其の力を斂いてゐた——其れは彼の威大なる精神的天分、革命的本能、殊に眞理を愛する眞面目な不撓不屈の精神の賜物である。

（註）ヨハン・ヤコビー（一八〇五年——一八七七年）獨逸民主黨の首領。一八四八年の獨逸の革命に關與し、數年間牢に投ぜらる。彼は死する數年前から社會主義の運動に参加した。

ラッサレーの缺點は、此の偉大なる社會運動家の性格と切つても切れぬ關係にあるものではなく、當時のプロシヤ及獨逸國內の政治的、經濟的事情に基因してゐるのである。其の時代に於ける社會運動家の最も眼目とされてゐた本分は、實際的な仕事、現實的な抗爭を續けることにあつた。

佛蘭西のブルジョアは一七八九年の大革命に依つて其の要求を満足させた。處が獨逸のブルジョアは一八〇六年の敗戦後、即ち所謂「解放戦」の後に勃興したのであつて、是れに依り經濟的復活の途、反動主義の路を開いたのである。従つて獨逸に於ける一八四八年は佛蘭西革命の微温的な反響に過ぎなかつた。ラッサレーが社會運動にたづさわる様になつた時には、一八四八年の獨逸統一の夢は四分五裂し、過去のものになつてゐた。

ヘルパツハ（註一）の徒は意氣揚々と木馬を乗り廻し、ビスマルクに向つて反對の聲をあげてゐた。而して至る處で進歩黨は——曾てハインリッヒ・ハイネ（註二）が「國家の春に輩出して來る黄金蟲」と云つた様に——唯ワイワイ騒ぎ立てゝゐた。ブルジョアジは自分の歴史的使命を自覺し、其れを實現するの能力がなかつた。彼等はプロシヤのエンケルヤ（註三）獨逸聯邦

各國の王公に對して、自己の爲に亦自分達の階級の爲に、一八四八年下層から革命を起す可きであつたのに、王公や政策家に壓迫を被むつた後（一八六四年の戦争、一八六六年及一八七一年の戦争）、彼等の爲めに上層から革命を起されて了つた。其れが直接の結果は、黒赤白三色旗をかゝげるポーヘンツォーレルンの皇帝を上を戴いたことであり、其れが最後の惡運は世界戦争に敗北したものである。

(註一) ウイリー・ヘルパツハはバーデンの政治家（一八七七年に生る）。一九一八年獨逸「民主黨」創立者の一人。

(註二) ハイブリッヒ・ハイネ（一七九七年—一八五六年）獨逸の詩人にして流麗な文章を書く散文家。ハインは自身革命家ではなかつたけれども、政治的不平に對しては大なる同情者であり、亦暴政に對する強き反感を持つてゐた。

(註三) ユンケルは中世の獨逸語ユンク、ヘール（若き紳士）から來た言葉である。土地、地主貴族の意味で、英國の地主貴族に相當する獨逸語である。

其の當時の獨逸労働者は所謂進歩黨の立場にあつた。此の關係を斷ち切り、彼等をして獨立し

た全獨逸労働組合（アレグマイネル、ドイツチエル、アルバイター、フェライン）を作らせたのはラツサレー其の人であつた。彼は此の偉大な仕事をはたし、充分學說上の智識を持つてゐたにも拘らず——彼は労働者階級を使用してブルジョアに歴史的使命をはたさせやうと云ふ矛盾を持つてゐた。従つて彼の地位は一つの悲劇であつた。どんな獅子の皮を着せた處で、大工のジョン・キンスを本當の獅子にすることが出来るだらうか？ 民主黨の陸軍大臣に黒赤金色の帽章をとらして、共和黨の帽章を付ければ、其れで共和黨にすることが出来るものだらうか？

ラツサレーの誕生百年（一九二五年）に當る今日、ラツサレーが猛烈な活動をやつてゐた當時よりも一層險惡の度がつり、もつと範圍が擴大し、同じ政治事件が繰返され、同じ政治關係が起り、同じ政黨がはびこつてゐると云ふことは、非常に皮肉である。故に彼の演説は昨日話された様な感がする。二、三の人の名前を變更すれば、あとは其の儘で通用する。政黨と其の首領が少し變つた丈けである、而してラツサレー當時の進歩黨は今日の社會民主黨である。唯普通選舉權の獲得はもうスローガンにならない。反動的勢力はブルジョアの民主主義の援けをかりて立派に完全に勢力を振つてゐる。ラツサレーは最早罪人ではない、其れ處か經濟理論家だとも賞讃

されてゐる。

以下の頁に於て、今日も猶效力を失はぬと思はれるラツサレーの演説から二三の思想を引用し不明な點を明かにしたいと思ふ。今や彼の誕生百年に際し、社會民主黨はラツサレーの名を面白くない目的の爲に使用し、彼等の政策を蔽ふ方便とした。然し、ラツサレーは今日の彼の後繼者とは選を異にする、彼の考へは彼等のそれと相違してゐる。カール・マルクスはラツサレーの死を惜しんでロンドンから、「彼はアキレスの様に若くして戦つて死んだ」と哀悼の辭を送つた。ラツサレーは今日の社會民主黨の人達からは、此の世に生を受けてゐたことが無く、亦「無産者のみが社會の礎である、此の礎の上に未來の寺院は建てられなければならない」と労働者に叫んだ事がない様さへ思はれてゐる。處が今や無産階級革命の問題が眞の國家問題になつて來た。労働階級をブルジョアの幻想から解放する事、彼等に階級闘争を起し、革命を起させる様にする事が、廻避する事の出来ない義務になつて來た。眞のラツサレーを理解せんとする目的の爲に、此の書物は綴られたのである。曾てラツサレーはフランクフォルトで演説をした後、彼の追従者に「私が普通選舉權と云つた場合には何時でも、革命よ、革命よと私が云つてゐるのだと思つて貰ひ度い」と云つた。

進歩黨が罪惡の様に忌つてゐたのは此のラツサレーである。彼等が反動主義者の手先である、ビスマークの配下であると攻撃したのは此のラツサレーである。彼と同時代に生きてゐた進歩黨、實際政治家、妥協屋、聯合家は此の書物の中に澤山出て來る。此の書物を讀むと丁度今日と同じ様な其の時代の全く絶望す可き政治の暗黒面、今と同じ様な卑しむ可きごまかしやと愚物、今と同じ様な道化役者と一千年至福信者が我々の目の前に現れて來る。一八四八年と一九一八年の間にはたいした違ひはない。且その反革命は今日のそれと恐ろしく似てゐる。猶亦無産階級は其當時と同一の仕事と義務に直面してゐる。従つて吾人は再び我々が愛するラツサレーを見なす必要があるのである。何んとなれば彼は革命行進の太鼓を打ちならすからである。

彼は劍であつた、彼は焰であつた！

譯者附言

一、歐洲語の演説を日本語に移植しやうと云ふことは、どうも困難な仕事だ、歐洲語に於て簡潔明瞭、しかも力強く表現されて居ることが、日本語になるとダラダラして仕舞ふ。しかもラッサレーは有名な雄辯家丈けに短言名句、人の胸を刺すの慨がある。従つて是れが反譯は益々困難に成つて來る。自分は勿論逐次譯をしたのであるが、往々にして意味を徹底させる爲め自由譯にした處がある。其れをとつて以て直ちに誤譯だと斷ぜられては困る。前以つて御斷りして置く。要するに自分は言葉の馳驅と云ふことよりも、判り易いこと、理路の徹底、を主として翻譯した次第である。

一、自分は處々に註を挿入した。ラッサレーの演説は決して昨日のものではない。今日明日の血が流れてゐるけれども、事情が今日のものでなく數十年前のことであるから、其れを判り易くする爲めに註を要する。但し最も簡短にした。もし充分の註を入れるとすれば、註によつて獨逸社會主義運動史が出來上る程大部になるであらうに依つて、出來得るだけ制限した。

一、ラッサレーの生涯に就て數言を冠頭に費したが、是れはラポポルト博士の文章を參考にして書いたも

のである。是れも長く書けば限りの無いことで一冊の書物にもなるだろうが、茲では短かいことを主眼として綴つた次第である。

一、ラッサレーの死に就ては疑問がある。決闘に依つて殺されたのではなく、奸計に陥つて殺されたと云ふ話がある。其れは愛人ヘレンの告白録に書いてある相だ。併し私は其の本を持ち合せてゐないので、通説を取ることにした。

目次

| | |
|------------------------|----|
| ラッサレーの生涯(譯者)..... | 一 |
| ラッサレーを評す(アルトマイエル)..... | 九 |
| 譯者附言..... | 一 |
| 獨逸労働者に檄す..... | 三 |
| 瞞著されるな..... | 五 |
| 飢餓と餓死..... | 八 |
| 不明瞭な思想家..... | 一〇 |
| 新聞..... | 三 |
| 人工憲法を作る策略家..... | 一七 |
| 憲法の交付者..... | 二五 |
| 妥協を排せよ..... | 二九 |

| | |
|----------------|----|
| 聯合か革命か？ | 四一 |
| スパルタクスカトウルナリヤか | 四九 |
| 階級闘争 | 五四 |
| 反動主義者ラツサレ | 六二 |
| 黒赤金色旗か黒白赤旗か？ | 六六 |
| 未來の曙 | 七〇 |
| 革命を起す権利と労働者の義務 | 七二 |
| 大審院に於ける辯論 | 七七 |

ラツサルレ 労働者に檄す

革命家雄辯集
三 編集

獨逸労働者に檄す

一八六三年五月十七日、フランクフォルトに於てせる演説

諸君、獨逸の労働者は奇妙な人々である。演説者が佛蘭西、英吉利の労働者の集會で話しをする場合には、彼等の悲惨な境遇を如何にして救済す可きかと云ふことを説くのである、併し諸君に話しをする時には、諸君の境遇が悲惨であると云ふことを先づ第一に諸君に了解して貰はなければならぬのであります。諸君は一片の安ソーセージと一杯の麥酒を持つてゐる間は、自分の周圍の狀況には盲目である。間違つてゐることがあつても氣が付かないのであります！ 是れは諸君の忌む可き節約に原因してゐるのである。「節約は徳操である」と、諸君は答へるでしやう。基督教の教義から見れば、節約はたしかに徳操であります！ 節約は印度の聖者が其の支柱としてゐる徳操である、節約は基督教の僧侶の徳操であります、然し歴史家及經濟學者の云ふ徳操はずつと其れとはかけ離れたものである。國民の最大不幸は何んであるかと、經濟學者に聞て

御覽なさい「必要があるのに其れ以上に節約することである」と彼は答へるでしやう。必要は、國民進歩と文化の刺戟劑であります。

今日——社會經濟の時代——云ふ處の徳操は、出来るだけ多くの慾望を持つと共に、其れを眞面目に正しく充足して行くことであります。諸君が此の事實を了解して下さらなければ、私が諸君に色々御話しをしても無駄であります。

瞞著されるな

諸君は瞞著されてゐる、迷はされてゐる、諸君よ！

諸君が労働者の境遇及其の改善案を論ずる場合、諸君は現在の自國の他の國民の境遇と比較して諸君の境遇を談するのでなければなりません——換言しますれば——同じ時代の一般の生活程度と比較する必要があります。しかるに諸君は諸君の境遇と、數世紀以前の労働者の境遇とを比較するやうに薰陶されて來ました、其れは不合理である。

併し乍ら、最小限度の生活必需品が改良されたとしても、日常生活の必需品が増加して來たと云ふこと頭に置いて考へて見ると——労働者は今日、八十年前、二百年前、三百年前の労働者よりも善い暮らしをしてゐると云へるでしやうか？ 是の問題は諸君にどんな價值があるのか？ 其れは諸君にどんな満足を與へることが出来るか？ 諸君はポトクドーや今日生存してゐる人食人種よりも以上の暮らしをしてゐるのは明らかな事實であるとして承認するにした處で、其れは少しも

満足の原因にはなりません。

勿論各人の生活状態は、或時代に於ける日常の要求に對し、其の要求を充足する處の方法に依つて恒に決定するものであります、即ち或る時代に於ける日常生活の要求の最低限度を越えて、欲望満足の方法にどれだけの余剰が残るか云ふことに依つて決定されるのであります。生活に對する最小限度の要求は段々増加して來るのでありますから、我々は昔経験したことのない苦痛と不自由を感じるやうになるでしやう。石鹼が買えないからと云つてポトクドー(註)は苦痛を感じるでしやうか？ 相當な着物を手に入れられないので人喰人種は不自由を訴へるでしやうか？ 亞米利加が發見されなかつた以前、煙草がのめない爲めに労働者は閉口したでしやうか？ 印刷術が發明されなかつた以前、有要な書物が手に這入らないと云つて、労働者は困難を感じたでしやうか？

(註) ポトクドーとは東部ブラジルに住む亞米利加印度人の名稱

今迄に人間が経験した生活要求、生活必要、生活慣習を満足せしめる手段方法と比率を採つて總ての人間の苦痛と不自由は決定されるのであります。でありますから、總ての人間の苦痛と不自由

由、及總ての人間の生活状態、換言すれば人類の生活様式は、同時代の他の人間の生活状態と比較して其の高下を測定す可きものである。其れと同じ理窟で、一階級の生活状態は、同時代の他の階級の生活状態と比較して測定するのが正當であります。時代が異なるに従つて生活必須要件の程度は高まつて行くものである、亦以前は夢想もしなかつた生活事情が現在は日常の必要事となつて來ました。其の爲に今迄は経験したことの無かつた苦痛と不自由を一般の人間が嘗めなければならなくなつて來ました。是等の事實があるにも拘らず、諸君の人間としての生活状態は古今を通じて同じ場處に停頓してゐたとしたならば、其れは何時になつても諸君は生活必要條件の最低限度内に相も變らず躓つてゐるのである。時としては生活必要條件より少し上にゐることもあり、亦時としては其れ以下に在ることもありませしやうが、兎に角諸君が躓つてゐるのは事實であります……………。

飢餓と餓死

獨逸人口の九割五分七厘は、一家族毎年五百ターレル以下の収入で五人の生活を支へてゐる家族であります。換言すれば其れは唯喰つてゐると云ふ程度の家族である。其れは少なくとも非常に貧乏な家族であります。諸君無産者階級は自分の勢力を持つてゐる、其の勢力を陰蔽する爲に困窮せる家族の数は公表されないのであります。諸君は勢力を形作るだけの要素は充分に持つてゐますが其れを自覺し得ない、當局者は亦其れを自覺させない爲に以上の數字を公表しないのであります。此の理由に基き、困窮せる家族の事實と數字を偽造せんとして、諸君に對し至る處で陰謀が廻らされてゐるのである……………。

諸君！ 飢餓と云ふ言葉は二重の意味に取ることが出来ます。人が路上に打ち倒れ、其處で餓死すると云ふ様な事實は、全く異常な出來事であります。併し食料が欠亡してゐる爲に精力の補充がつかず——取り入れるよりも消費する精力の方が勝つてゐる場合——生活程度の低い場合——

——換言しますれば取り入れる力よりも出す力の方が超過してゐる場合——斯うした場合には人間は結局飢餓に陥るものである。併し後に云ふ場合の飢餓は、直ぐ人間が餓死すると云ふ程度のものではないのでありますから、小兒を生むことは充分出來ます。此處に於てか人口は増加する、殊に勞働階級の人口は増加します。しかも飢餓の押し寄せて來ることは少しも變りがありませぬ。

不明瞭な思想家

一八六二年四月十二日、ベルリンにてなせる演説

各時代の歴史を通観しますのに、何時もの不明瞭な思想家が繰り返し繰り返し出現して來ます——かゝる思想家中にはセント・ポール寺院(註)で失敗を重ねた大學教授其の他の連中で、表面非常に教養のある様に見える人間も含れてゐます——かゝる不明瞭な思想家は、時代と制度の廢退を慨し、新しき革命の原理に依つて是を救はんとする比較的明瞭な確固たる思想家を誤らしむるものであります。

(註) セント・ポール寺院と云ふはワイアールに於ける同寺院を指すのであつて、此處に集まつた教授連中とは一八四八年獨逸に眞の民主的憲法を制定す可く、同寺院に集まつた國會議員を云ふのである。此の國會招集は頗る民主的なものであつたけれども、プロシヤ王の爲に全く失敗に歸し、以來歐州大戦争終局に至るまで、獨逸は軍國主義者の支配下にあつた。

私が諸君の注意をうながし度いのは、自分の頭の中丈で革命と云ふ事を考へてる人間、亦さうした傾向を持つてゐる人間に對し、用心しなければならぬと云ふことである。なぜかと云ふのに過去に於てさう云ふ人間が在つた様に、未來にもさう云ふ連中が出て來るに違ひないと私は思ふからであります。

多くの社會運動は、直きに四分五裂して了ふか、さうでないにしてもほんの三日天下である。かゝる一時的の成功は世人が歴史上よく見かけることであつて、善良ではあるが淺薄な人々、國民の友と自稱する人々が脱ぶ處のものであります。かゝる社會運動は革命運動でありましたが、實は彼等の頭に描かれた空想的革命であります。眞の革命運動、眞の新しい思想の上に立つた運動は決して打ち壞されるものではありません、永久に壞されるものではありません——深く物を考へる思想家は歴史を讀んで其れを語つてゐますから、失望することは有りません。

新聞

一八六三年、九月二十六日、二十七日、二十八日の三日間に互リバルメン、ゾリンゲン、ドウツセルドルフの三箇所に於て開催されたる獨逸總労働者組合の會合席上にてなされたる演説。

「進歩黨」が全く瓦解し衰退せんとする最も悲觀す可き徴候は其の機關新聞に現れてゐます。私は今茲で重大な點を論じつゝあるのであります、而して私は此の問題を詳細に論じ盡す必要があるのでありますけれども、遺憾乍ら時間が有りませんので豫期の如く其れを取扱ふことが出来ません。諸君が恒に心に留めて置かれ、機會ある毎に宣傳しなければならぬ事が一つあります。我々の主要なる敵、——獨逸精神と獨逸國民が、健全なる發達を遂げて行く上の最大なる敵は、今日新聞であると云ふ事を留意して戴き度い！現在の進化の階梯に立てる新聞は、國民の眞の敵であります、其の敵は色々な假面を被むつて居りますから頗る危機な敵であります。新聞の悪い點は世の中を欺瞞し、全く腐敗してゐて、しかも不道德であることであるが、其れ以上一番悪いの

は、恐らく新聞自身が無智であることでありませう。

此の新聞が二心を抱てゐるのは、我々の團體に對して敵對的態度に出てゐるのを見れば、一番よく諸君に諒解出来る筈であつた、しかも諸君は其の實相を少しも心得てゐない。新聞は嘘八百を並べる、事實其の物を使つて嘘をつく、事實を虚構します、時によると事實を全く反對に捏造します——斯ふ云ふ武器と私達は戰つて來たのであります。かゝる不面目なことをして置きながら、記事の訂正を申し込むと、新聞は多くの場合其れを受諾しません……………。

併し記事の訂正に對し沈黙を守る主要な動機は、財政上の利益から出てゐるのだと云ふ事を、新聞自身が承認してゐるのを見れば、其亂暴さ加減は例え様がありません。其れは「ライン新聞」(註)(ライニツシエ、ツアイトウング)でありました——一八四三年と一八四八年にラインで發行されてゐた同名の二大新聞は、其の地方の誇りでありましたが、今の新聞は同名ではありませんが前の名前を汚すものである——私が云ふ「ライン新聞」は此の不面目の巨頭であります。進歩黨の間にも新聞の卑怯を攻撃する不平の聲が漏れて來ますと、新聞は、「新聞發行者が新聞に投資した資本を犠牲にするなんて、國民は思つてゐやあしない」と云ふのです。彼等にすれば、た

しかに新聞發行者の資本程神聖なものはないのだ！ 長い間新聞の特權であつた總ての觀念を無慘にも蹂躪し、損をしない様にする、發行者の神聖なる資本に危険を及ぼさない様にするのが新聞の實際の勤めだと論じてゐるのであります！ 此等の新聞は如何なる場合でも、適彈に打たれない様にするのが自分の本務だと思つてゐる兵卒に等しい——然し、其れは間違つてゐる、新聞は元來自由の戦士でなければならぬ筈だ、而して自由を叫ぶのが任務である。

(註) 「ライン新聞」、即ち此の演説中でラッサレーが其の地方の誇りであつたと云ふ「ライン新聞」はラインの有産急進黨の手に依つて發行され、其の黨派の機關となつてゐたものである。同紙は一八四二年十月乃至一八四三年一月まで、カール・マルクスに依つて編輯された。今茲で云ふ「ライン新聞」は同名異物である。

其れは實に非常に危険な状態に逢着してゐるのであります。我々の新聞を全く改造せず、此の新聞の流行病があつても五十年も繼續しましたなら、我國民の情報機關は根本から破壊されて仕舞ふであります。是は實に遺憾千萬なことであるが、私としては左様云はざるを得ないのであります。數千の新聞記者、即ち國民の新式な教師は、自己の無智、良心の欠乏を社會に散布し、亦彼等は

政治界 藝術界、科學界に於ける事實と重大な諸相を無意味に嫌惡する。彼等は、此の害毒を知らず信用して耳を傾けてゐる國民に向ひ、此の誤つた精神を吹き込むのであります。しかるに國民は新聞から心の糧を吸収し度いと思つてゐるのでありますから、此の毒物は數十萬人の聲となつて傳播される。事態かくの如くなりとしたならば、現在の様な新聞を幾度創設した處で、我々國民の情報には必ずや破壊されるばかりで有ります。世界中で最も有爲な國民でも、往昔の希臘人でも、かゝる新聞には敵はなかつた。譬へ此の新聞記者仲間、五人、十人、或は十二人の眞面目で聰明、誠實な人物があつたとしましても、此の事實を、私の主張する様に改造することはできません。何んとなれば眞面目な人間の聲は彼等の仲間の怒號喊聲に打ち消され、何等の反響も齎さず消滅して仕舞ふからであります……………。

金を儲け度いと希ふ人間は、綿糸か綿布を作るか、株相場でもやればよいのであるのに、彼等是不淨な黄白を手に入れるのを目的にして、社會の情報機關たる總ての井戸に毒藥を投じ、亦は數千の管から毒瓦斯を送り込み、毎日國民を精神的に殺るさうとしてゐるのであります——私の見る範圍内に於ては、是れは最惡の犯罪である。國民の眞の敵、最も危険な敵、友達の假面を被

むつてゐる陰險悪辣な敵、其れは現在の新聞であります。此のスローガンを熱心に諸君は守つてゐたゞき度い、而して我が云ふスローガンを諸君自身のスローガンにしてゐたゞき度い。今日の新聞を嫌忌輕侮し、是れを殺戮粉碎しなければなりません。

(註) 此の演説はアレグアイネー、ドイツチエル、アルバイターフェライン (獨逸總労働者組合) の會合に於てラッサレーがやつたのであるが、此の組合は一八六三年、ラッサレー其の人に依つて創設されたものである。

人工憲法を作る策略家

一八六七年四月六日ベルリンにてなされたる演説

成文憲法は何時、立派な、水久的なものになるのでありますか？

成文憲法が眞の憲法と一致したとき、成文憲法内に國內の勢力が眞に列記された時………諸君、此の場合に於てのみ、成文憲法は立派なものになるのであります。成文憲法が眞の憲法と一致しなかつた場合には、衝突鬭争が起るであります。此の衝突は避く可からざるものであり、必然の結果として成文憲法の破壊となります。此の場合、成文憲法は眞の憲法、換言すれば國內の勢力の實際的分配と相反するが故に、單なる一枚の紙に過ぎないからであります。

然らば、其の場合には、如何なる方法を執る可きでありましたらうか？

先以て、成文憲法を作製する必要はない、眞の憲法を作らねばならなかつたのであります。國內に於ける勢力の眞の配利を、變更す可きであつた、國民の利益となる様に改造しなければなら

なかつたのであります。

一八四八年三月十八日、國民の勢力は軍隊の勢力よりも明かに一時優勢でありました。長い間流血の闘争が続いた後、軍隊は余機なく退却しました。

(註) 一八四八年二月の佛蘭西革命は獨逸にも浸入して來た。自由主義と單一政體を理想とする首勝者は、南方及び中部獨逸の町々で自由主義の憲法と獨逸帝國議會の招集を要求した。プロシヤ王、フレデリック・ウイルヘルムはベルリンの所々に防塞を作り脅威するものが出て來たので、三月十八日自分の主義を枉げた。聯邦議會は普通選舉により獨逸國會議員を選出可しと聯邦に命じた。約六百の議員は獨逸國會を開催す可く、一八四八年五月十八日フランクフルトの聖ポール寺院に集つた。其の會期は一年間繼續したが、初めグイエナに起り、次にベルリンに及んだ反動專政主義が勝利を博したので、各聯邦政府は代表者を召還した。過激な記黨はストウツトガルドルに移つたが、遂に軍隊の爲に解散されて了つた。

私はずつと以前に、國民の勢力と軍隊との關係を指摘し、現在軍隊の勢力は微弱であるけれども、長い間には強大なる國民の勢力を凌ぐ様になるだらうと云ひました。

國民の勢力と武力との相違は、國民の力は非組織的でありますが、武力の方は組織的勢力であると云ふ點である。軍隊の力は何時でも利用出来るし、亦再び闘争しやうと思ふなら其れを起し得る様に準備してあります。でありますから軍隊の勢力は非組織的な國民の勢力よりも優勢であり、國民の勢力に對抗して勝味がある筈である。而して國民の勢力は稀に熱誠が溢れた時にしか結合することは出来ない。

三月十八日に、國民は勝利を博したのであるから、其れを國民の利益になる様に轉換せんとするならば、此の戰勝の機會を利用して、軍隊の組織を改造す可きでありました。即ち君主が軍隊を國民に對抗する一つの暴力機關として再び使用出来ない様になす可きでありました……………すくなくとも少佐迄の下級將校は、上官から任命せず、軍隊自身が選舉する必要がある。且、かくすれば將校たるの地位は、國民を敵とする様な人物が占めることもなく、軍隊を君主の盲目的機關に供せしめることも不可能になつたであります。且亦、特別の軍事犯以外の軍隊の犯罪は、普通の裁判處で取扱ふ可きでありました、かゝる方法を以てすれば、軍隊は國民の共有物に歸し、而して國民と分離した一種特別な階級にはならなかつた筈であります。

更に、國防に供する以外の大砲は、國民が選出した自治團體管督の下に保管し、陸軍の演習以

外には絶対に其れを使用しないと云ふことにす可きでありました。此の大砲の一部は、國民軍砲兵隊を編成して其の使用に供し、以て大砲を國民の勢力下に置かなければならぬ筈でした、——是れは實に憲法の主要な要素であります。

諸君！ 一八四八年の春と夏にかけて、總て是等の仕事は、何一つとして實現されませんでした、而して「三月革命」は再び其の旗色が不明瞭になり、亦一八四八年十一月革命の據つて以て立つ可き根據を喪失して仕舞つたと云ふことは、驚く可きではありませんか？ たしかに諸君は驚かざるを得ない。民力を眞に整えると云ふ點から觀れば、何等の變更も施こされなかつたのでありますから、其の後の段取も單に其れが必然の結果にすぎないのである。

聯邦の王皇の方が諸君より一層よく働きました。國民に奉待する者は往々にして辯舌家に終る場合が有りましたけれども、王皇に奉待する者はさうでない。彼等は本能によつて難局を知る事の出来る實際的な人物であります。

ヘール・フォン・マントイフェル（註）は偉大な雄辯家では有りませんでした、實際家でした！ 彼が國民議會を解散して、一八四八年の十一月、路上に大砲を据え付けた時、彼は其の次

に何を爲ましたか？ 彼は反動的憲法を起草して、自分の政策の推行に着手しましたか？ 決してそんな事はしない。彼はなかなかそんな事はしない。一八四八年十二月、彼はなかなか自由主義な憲法を國民に與えました、尠くとも紙の上では。併し十一月に彼が實際に立てた方策は何んであつたか、第一の手段方法は如何なるものでありましたか？ 彼が初めに實行したのは、國民の武装を解除し、武器を取り上げたことであります、諸君是れはよくよく記憶して置かねばなりません。戦勝者は何時でも新しい戦ひを起さうと思つておましたから、彼の主要な仕事は、戦敗者の武装を解除するにありました……………。

（註） オットー・フォン・マントイフェル（一八〇五年——一八八二年）プロシヤの反動政治を奉ずる政治家）彼は一八四九年十一月ベルリンに於て開催されたる國民議會を解散せしめた。なかなかの手腕家であつた。

一八四八年に於きましては、國內の實際の勢力を變更する必要な政策は一つとして實施の運に至らず、亦王皇に隸屬する軍隊を移して國民の治下に置くと云ふ事も敢行されなかつたと云ふことを、私は茲で示したのであります。

成文憲法を作成すると謂ふことは最後の問題で有ります、其れは三日間もあれば出来て了ふでせう。成文憲法は其の關係者にとつては、最後の仕事である、而して余り早くかゝる憲法を作るのは、全く何にも爲ないのと同じであります。

獨逸國內に於ける力の實際關係を改造すること、武力に汗渉すること、今迄軍隊は國民の意志に反する行爲をしましたが今後は再びかゝる行爲をなさぬ様に軍隊其のものを徹底的に改革すること——一八四八年代の人々が爲す可き仕事は是れでありました、成文憲法に永久の生命を與へんとするなれば、其れ以然に當然かゝる仕事を完成して置かなければなりませんでした。

假令ば或人が自分の庭園の林檎の木を持つてゐるとします、而して其の木に、「是は無花果樹なり」と書いた札を懸けたとしたら、其の爲に林檎の木は無花果樹になるでせうか？ 譬へ其の人が自分の奴僕と其の地方の住民を悉く集め、皆んなに向ひ、「是は無花果樹なり」と然嚴として宣言しましたが、其の木が無花果樹になることは有りません。其の木は依然として元の木でありせう。さうして次の年が廻つて來れば、其の眞なりや否やは判然とするでせう。其の木にば林檎がなつて、無花果樹は實ますまい。

吾人が論述しましたやうに、此の場合と憲法とは全く同一であります。紙の上に書いた事と、實狀、即ち勢力の實際上の配列とが一致しなければ、其れは全く無價値であります。

一八四八年、十二月五日、國王は、紙片の上で、自分の意志に基き、數々の讓歩をなし以て承認を與へました。然し此の成文憲法は眞の憲法と相容れないものであります。此れを放任して置きますれば、重力の法則と同じ様に、眞の憲法は、一步一步成文憲法を浸蝕して行きます。

其處で國王は、——一八四八年十二月五日の憲法が修正委員會を通過したにも拘らず——第一回の變更、即ち一八四九年の三段選舉法を直ちに採用しなければなりませんでした、而して此れを勝手に憲法に記入しました。選舉法（註）に依つて創設された衆議院の助けをかりて、憲法の根本的改造が行はれなければなりませんでした、而して一八五〇年國王は夫れを裁可しました。國王が其れを裁可してから、實際に憲法の改正が始まつたのであります。一八五〇年以來毎年何等か憲法に改正が施されました。數百回の戦争を通過して來た軍旗でも、我々の憲法程襤褸ぼろになり孔だらけなのはありません。

（註） 三段選舉法。三段選舉法と云ふのは、選舉權者の納移資格を基礎にして、是れを三つの階級に分類し

たのである。此の制度は一八四九年プロシヤに實施されて以來、一八九三年に可成の變更が施こされたけれども、其の實質は一九一八年十一月九日の革命まで繼續してゐた。

憲法の交付者

諸君も御存じの様に、我々の市には一つの政黨が在り、其の機關新聞は「國民新聞」であります。此の政黨は檻褸々々の軍旗、我々が戴てゐる此の檻褸々々の憲法を固執してゐるのである。従つて此の政黨は「憲法に忠誠であれ」と云ふことを標語にしてゐます。而して「我々は神の爲に憲法を固守しなければならぬ、憲法である——助けてくれ、救ひに来て呉れ、火事だ、火事だ！」と喊聲を擧げるのであります。諸君！如何なる時、如何なる場處に於ても、一政黨が勃興し、其の喊聲は「憲法を固守せよ」と云ふのであつたとしたら、諸君は是れをどう推論されますか？ 諸君！私は諸君を行動の人、意志の人と見て質問をするのでは有りません。私は諸君の意志を御尋ねするのではない。私は單に諸君を思慮の人としての考へを伺ふのであります。此の場合諸君は如何なる推論を持たれますか？

扱て、諸君！ 諸君は豫言者にならなくとも、此の場合、「此の憲法は息を引き取らうとしてゐ

る、其れは死んでるのも同然だ、數年の内に消滅して「了ふだらう」と斷言することが出来るでせう。

其の理由は至つて簡單であります。成文憲法が、國內民力の眞の配列と一致してゐる際には、かゝる不平は決して起らないでせう。萬人はかゝる憲法を尊重します、唯れ一人として其れを侵害しやうとする者は有りますまい。憲法に對するかゝる敵對行爲は、確かに極惡非道なものでありますから、唯れも憲法の咽を扼せんとする者は有りますまい。成文憲法が國內の民力の眞の配列と一致してゐる時には、特に憲法を固守せよと云ふ喊聲を擧げる政黨の出現を許しません。かゝる喊聲を擧げる者があつたとしたら、其れは明かに暴政の叫びである。換言すれば、成文憲法中の或條項が、實際の憲法、即ち國內民力の實際の状態と相背馳するのでかゝる叫聲が起つて來るのであります。一度かゝる矛盾が曝露された以上は、其の成文憲法は永久に葬り去られたのである、神も是れを庇護することは出ない、如何に叫んで見た處で夫れは何んの役にも立ちません。

かゝる憲法は、右傾派か左傾派の何れかの方面から改造される運命を負ふてゐます、故に其れを萬代不變の憲法となす事は出来ません。憲法を守らなければならぬと云ふ叫び其のものが、達

識の士から見れば、かゝる欠陥のある證左であります。政府は成文憲法を社會の組織的勢力と一致させる爲めに修正を施し、右傾的なものに改造するかも知れない。或は、其れと反對に社會の非組織的勢力は、組織的勢力よりも再び強大になつて來るかも知りません。前の場合には憲法は右傾的に改造されるのですが、此の場合には憲法は左傾的なものに變更されるであります。

諸君、私が今日諸君に御話し致しました講演の文句をよく心に留めて考察するのみならず、其れを最後の結論まで推し進めて見ましたならば、諸君は憲法問題の實際的運用方法を納得されるであります。憲法問題は根本的に考えて見ると、權利の問題ではなくして、威力の問題であります。一國の眞の憲法は、一國內に勢力を占めてゐる實實際上の威力の狀況に依つて定まるものである。成文憲法が社會に勢力を占めてゐる威力の眞の状態を如實に表現した場合に於てのみ、其の成文憲法は眞の憲法であり、永久の生命を持つたものであります——此の原理を諸君はよく心に留めて置かなければなりません。私は今日諸君の前で此の原理と武力の關係だけを御話し爲たのであります。何となれば、第一に私の講演の時間が短いので、此等の原理を各方面に應用して御話しすることが出来なかつたこと、第二には軍隊は、威力の組織的用具として最も重要なも

のであるからであります。併し此の事柄を司法官、行政官其他に等しく適用して見ましたら、諫君は自得する處が有るだらうと思ひます、是等は或社會に於ける威力の組織的用具でありますから。もし諸君が私の講演を忘れられなかつたならば——諸君が若し自から憲法を起草するとしたならば——諸君は如何なる手段方法が必要であるかと云ふことを悟られるであります。而して紙上に文字を羅列するだけでは満足が出来ず、國內の實際上の勢力を根本的に改造しなければならぬと云ふことを知られるであります。

妥協を排せよ

一八六二年十一月十七日、ベルリンに於て「憲法の本質」に就てなされたる第二回目の講演

専制主義が反革命に勝利を博して成功した場合、何をしたらうか？

専制主義は以前として權力を自己の掌中に收めんとするでせう。此の點は聊かも疑ふ餘地は有りません。併し乍ら、其れは舊來の形式、即ち赤裸々なる専制主義を維持せんとするのでせうか？ 憲法を排棄し、而して全く憲法を認めざる從來の専制主義者流の政治を施さうと云ふのだからか？ 決してそんな事はしない！ 専制主義はそんなに馬鹿ではありません。市民の社會的勢力は非組織であるけれども、其れを最後まで推し進めて行くと、専制主義よりも確かに優勢である、——専制主義は順風に帆をあげてゐる時には、其の組織力を日頃訓練してある御蔭で、一時は市民を打ち破ることが出来ます、然し市民は非組織でも以前として社會上優勢な勢力であることは拒むわけにゆきません——換言すれば何時でも新たに衝突が起つたとしたら、専制主義は再

び敗北の浮目を見るでせう、而して専制主義の敵である市民が此の結果を巧く利用して行きさえすれば、今度こそ専制主義は永久に立つことが出来すまい——専制主義は嫌やいや乍ら此等の事實を承認してゐます。其れと云ふのも専制主義は獨逸に於て、一八四八年三月十八日に一度惨敗してゐるからである。

人間は人間しか生むことが出来ない、林檎は林檎しか生むことが出来ません、故に總ての生物は自分に似た生物、自分の形ちと同じに作られた生物しか生むことが出来ない。此處に於て長年月の間には社會の組織的基本勢力は、必ず組織的全勢力——即ち政體——を生むに相違ありません、而して組織的全勢力は基本となつてゐる勢力と同じものであり、亦其の姿體のつとつて作られたものである。専制主義は曾て市民の社會的勢力を痛感させられたのでありますから、如上の事實に對しては不明瞭乍ら、少なくとも疑ひの眼を放つてゐます。

結局、當局者は、私が前にも諸君に申し上げました通り、實際的な人間で、事情を感知する本能を持つて居りますから、専制主義者は此等の事實に對し明白ではないが多少感付く處がなければなりません。

専制主義が社會的勢力と正面衝突をした場合には、何時でも雪なだれの様な社會的勢力の襲來に逢つて粉碎される危険があります。強性な専制主義は如何にさうでない様な振りをして、此の危険を知つて内心悦んでゐないのは事實であります。

でありますから、専制主義は少なくとも暫くの間でも自分を守つて行く手段を講じなければなりません。其れは憲法の假面を被むることでもあります。

専制主義が此の手段方法を取ると云ふこと、即ち表面上の立憲主義を奉ずると云ふことは、専制主義が一大利益を獲得し、無限に生きながらえて行くわけになります。

若し専制主義が舊來の赤裸々な形式を固守して立つて行かうとしたならば、其の生命は長くありません。専制主義と社會的勢力と正面衝突を起した時には、社會は専制主義を打倒せよと云ふ恒久不變のスローガンを持つ様になるであります。事實、總ての社會は——此の場合事の性質上——専制主義の政體を打倒する爲に、大同團結をするより外に途が有りませんでした。世界に於ける如何なる政府も、長い間かゝる状態を保持することは出来ませんでした。政府が優勢である時には、其の軍隊を使簇し、攻撃に成功し、反革命を成就し得るかも知れませんが、政府が被

攻撃者の地位に立ち、國民から受ける攻撃を防禦しなければならぬ場合には、其の情勢は一層政府に取つて困難であります。好機を捕らえる機會を持つてゐるのは國民であるから、此種の闘争に於て勝味は攻手の側にある。今世紀に於ける政府の執つた多くのクーデターは初め成功しましたが、やがて國民の起した革命が成就したのも此の理由に基くのであります。乍併、政府は或る期間、警へば數ヶ月間、國民の攻撃を撃退することが出来るかも知れません。けれども政府は長期に亘つて交戦状態を持續し、亦重大性を帯びた問題が紛糾してゐる最も困難な事局に處し、攻撃を阻止する爲に戦備をこらしてゐると云ふことは、至難な術であります。如何なる政府にしましても、長期間かゝる状態を維持してゐると云ふ事は不可能であり、亦そんな事はとても思ひも及びません。

然し、専制政府が空虚であつても表面上立憲的な形式を備へ、其の形式の範囲内で古い専制主義を續行して行つた場合には、其れは絶大な利益を享ける。何んとなれば、かゝる政策は、政體と社會の有力なる社會團體との間の調和が取れてゐる様に見えるので、後者は暫時安き眠りに落ち満足してゐるからであります。是れまで力闘して來た目的が既に達せられたかの觀があるから

である。此の錯覺は争鬭を緩和し、戦闘心をくじき、其の目的を骨抜きにし、以て民衆は満足するか無關心になり、而して興味を失つて仕舞ひます。以來民衆の勢力は無意識的に政府倒滅に向つて働くでありませうが、其れは社會自身の眞の意識ではありません。

故に擬立憲主義は決して國民の成功ではない——此の點をよくよく諒解して戴き度い——却て其の反對に専制主義の成功であります、専制主義の生命を延ばす必須手段であります。

政府は虚偽を宣言します、而して政府は我國家は立憲國であると言ひますけれども、實際は專制國であります。でありますから、此等の事實を見れば、今諸君が私の言葉で諒解された様な、擬専制主義が如何なるものであるかと云ふことを知ることが出来ます。擬立憲主義は虚偽であります。

此の虚偽、其の勢力と争つて、此れを屈服せしめる方法は、此の虚偽の真相を曝露することである。外觀に依つて民衆を欺瞞してゐるのでありますから、適當な戦術は此の外觀を破壊し、亦民衆を誤らしむる其の感化力を切斷しなければなりません。適當な方法は虚偽に其の假面を脱がせること、而して、實際は其れに専制政治であると云ふことを社會に和らしむるにあります。

議會は唯眞實を告げなければならない、——結局勝ちを制する武器は是れであります。

總ての偉大な政治行爲は現状を知らしめるにあります、而して前に云つた様な事實を曝露せしめることあります。

有らゆる政治上の誤間化しは、現状を陰蔽し、是れを被ひ隠すにあります。

私は我々の黨の結合の爲に、さう云ふ事は口外しない方が良いと思ひますので云はないのですが、實は私は茲で大に政治的詰問を發す可きでありました。今日に至るまで數年間——新時代が割されて以來——新聞經營の任に當る國民黨の首領は事實を虚構すると云ふ方法ばかりを執つて來ました。私は用心をして其の新聞の名前を申し上げませんが、諸君の方で私は所謂「國民新聞」を指してゐるのだなと云ふを悟られるに違ひない。彼等は物は粉飾しなければならぬ、秘密を守らなければいけない、事は陰蔽するに限ると云ふ考へを基にして行動をしてゐるのであります。彼等の精神からしますと、政府が最後に此方の主張を容れて、立憲的政府になる様に政府を首肯せしめる必要があると思つてゐるのであります！ 故に彼等の目的は欺瞞に依つて政府を改造せんとするのである。乍併、人生及歴史上の眞の成功は只眞の改造に待つ可きものである、

土壤を本當に耕すことであります、虚言に依つて改造を施すことは出来ません！ 彼等は自分自身希望してゐないのにも拘らず、武器の選擇を誤り亦其の武器の效果の爲めに、政府の人間になつて仕舞つてゐる、しかし彼等は馬鹿なので其れを理解することが出来ません。武器の選擇を誤りやまつてゐると云ふ意味は、彼等の武器は專制主義が慣用し來つた武器と同じだからである、其れは擬立憲主義の假面を被むつてゐる、即ち實相を明白にしないと云ふ武器であります。亦其れと同じ様に、其等の武器を使用するので政府の奴隸になつてゐます、何んとなれば彼等は新聞紙上で虚言を吐き、現政府は立憲政府であると云ふ考へを現政府に教へんが爲めに、彼等は毎日國民に對し政府に對するのと同じ虚偽をつき、國民をして實際に其れを信ぜしめなければならぬからであります。しかも彼等は馬鹿なので此の關係を悟らない。彼等は政府の尻押しをして擬立憲主義の途を進ましめる事になるのです、我々同志の助けに依つて此の道は平路坦々、少しも障害物がありません、且亦彼等は赤子である爲に此の事實を理解し得ないのであります、私に言はしめれば、政府自身は自分の爲に威信と光背が出來るので喫驚し、亦被むるだけの價值のない頭に光輝嚇々たる「新時代」の王冠を戴せられて驚愕してゐるのである、其の爲に政府は最後に

圖に乗つて軍事的要求を提出することが出来たのであります。是等の馬鹿な連中は毎日新聞の主要欄で不道德を改めて置き乍ら、虚偽は最も不道德な武器であると云ふ真相をつかめないのです。政争上此の武器は政府のマキヤベリー式戦術（註）には利益があるけれども、國民自身には何等の利得を齎すもので莫いと云ふことを彼等は知らないであります。

（註）ニコロ・マキヤベリーはフロンスの政治家にして著述家。其の主要なる著作は「國王」。彼は國民を瞞著し、以て是れを支配するが王者の正道であると説いたのである。

彼等が通過して來た道を通つて事件が進展し來つたと云ふことは、彼等の考へに欠陥があつたからであります。

擬立憲的なシュウエリン・パトウ内閣は、陸軍編成の爲に假豫算を要求しました。此の時、彼等は「高位の人々！ 大臣は高位高官である！ 大臣を信頼せよ！」と云ふ喉聲を上げ、新聞の社説で書き立て、議會に其の假豫算を可決させました、彼等は當時易々として其れを拒絶することが出来たのである。でありますから、次で陸軍編成議案の提出を容易ならしめ、而して現在我々を此の激しい鬭争の巷に立たしめる様にさせた責任は、彼等にあるのであります。彼が假豫

算を可決しなければ、かゝる事態は起りやうが無かつたのであります。

（註）シュウエリン・パトウ内閣。此れは自由黨のプロシヤ内閣であつた。其の内閣の一員にマキシミアン・シュウエリン伯があつたのである。（一八〇四年——一八七二年）。シュウエリンは一八六六年ピスマーク内閣の政策に對して賛成投票をした第一次「自由黨」の一員であることを知れば、彼が如何なる人物であるかと云ふことは明瞭になるであらう。

然し過去は過去をして葬らしむればよいのだ！

けれども新聞を向ふに廻して一層激しく戦ふこと、亦再び國民の權利を剝奪する爲めに手管を盡して物を陰蔽する政策を阻止することは我々の義務であります。私は國民が全勝する方法を諸君に教示しました、此の目的に向つて働かねばならない！ 國會議員と輿論とは互に諒解しあつてゐなければなりません。我々が今茲で論じました政策を樹立し、其れを教育上のスローガンにしなければならぬ。諸君の友人知己の間に、公私の席上で、諸君の活動の全幅を傾け盡して其れを宣傳しなければならぬ、其の目的に向つて戦はなければならぬ。此の武器を手にしない者は悉く、意識的か無意識的の差こそあれ、此の大義明文に反抗する輩であります。私が諸君に

大略申し上げました政策は、議會の權力範圍内に於ける唯一の方策であります。他に方法が有りますか？もし議會が議會を開く度に、内閣の他の要求を——内閣の全要求さへも——引き續き否決しましたならば、議會は内閣を無理押しつけに押しつける事が出来るだらうと考へる事が有りますが、其れは最も憫む可き、最も馬鹿らしい幻想であります。議會が立憲的に否決したものを、内閣が敢て蹂躪し、恰も議會が存在しない様な風に振舞ひました場合、議會は有効に二回、三回、四回と其れを否決することが出来るでせうか？實際からしますと、政府は議會が政府にとつて不利な決議をしました場合には、其れが全然採決されなかつたと同じ様に見做す慣習を作らるでせう。政府も國民も相方共に斯う云ふ事に慣れて了ふでせう。議會の議決を無視すると云ふ此の可笑しな習慣は、深く染み込み、而して政府部内よりも國民の間に一層深く植え付けられるでせう——其れは理由のあることであります。立憲的に採決した決議を蹂躪されても、議會は相變らず立法案を評議し、亦擬立憲主義の道化芝居を政府と手を結んで演じてゐるとしたならば、其れは議會其のものを政府の最悪の共犯者となすものであります。何んとなればかゝる政策は、立憲政體の外觀を備へて居りましても、其の實、政府は國民の憲法に基く權利を全く剝奪する怖れがあるからである。亦議會は此の點から云へば政府よりも責む可き罪があります。なぜかと云ひますと、議會は我々國民の代表であり、我々の權利を保護するものであるのに、其れを裏切るのでありますから、我々の敵自身よりも遙かに罪が深いのであります。

若し内閣が所謂妥協を誘導するもしましたら、其れは更に悪いことでありませう。諸君はかゝる結果に對して、殊に反對の聲を高くしなければなりません。

此の問題に對して、妥協を許すことは出来ない……………。

議會がかゝる状態に臨んで何等かの形ちで妥協をとけるとしましたならば、此れは最早妥協でもなく、協調でもありません、其れは憲法を全然放棄するものである。其れはビスマルク流（註）の政治的慣用手段の事務處に、職を奉ずると同一の意味になります。「政府と議會の立憲的權利と衝突した場合に、屈服するのは議會である」と云ふのがビスマルク流の政治の標語であります。故に妥協を口にする者は、意識的か無意識的に大義明文に反抗するものであると見做す可きである——殊に無意識の間にかゝる行爲をなす者は猶危険であります。かるが故に、諸君よ、我々は妥協の錯覺に誘惑されてはならない。古き專制主義が如何なるものであるかと云ふことに就ては

諸君は今、充分會得されたことだらうと思ひます。故に、我々は政府と新しく妥協してはならない、「我々の手で彼の咽喉をしめ、地面に叩き付ける」と云ふ言葉を、我々の標語にしなければなりません。

(註) かの有名な獨逸の政治家、獨逸帝國の創立者ビスマルクを指すのである。ビスマルクは有名な「除外令」を作り、以て獨逸の社會主義運動に對抗した。

574209

聯合か革命か？

我々は總ての事を大目に見逃すとして、扱て有産階級の自由運動は現在どの程度の効果を收めてゐるだらうか、而して何處まで進展するものだらうか？ 其の運動は有産階級自身の自由を獲得すると云ふ目的を達したでせうか？ 之を要するに事實は今卓上に載せられて我々の目前に並べられてあり、誰れでも一目瞭然に見ることが出来る！ 一八四八年以後、此の十五年間に、有産階級の自由運動はどの程度まで目的を達したでせうか、而して現在は如何なる地點に立つてゐるのでせうか？

實際を観察しますと、讓歩に讓歩を重ね、妥協の上に亦妥協し、協調に次ぐに協調をすると云ふ有様で、今世紀の二十年代に小立憲國が既に實現してゐる成功さえも、我々はプロシヤ國內で手に收めることができないのであります。我々は立憲國の基礎處ではない、豫算の議決權さへも有しないのであります、我々は本當は純然たる專制主義の治下に生活してゐるのである。一八四

八年に民主主義が鮮血を流して國の爲に獲得しましたものを、自由主義の有産階級は段々と失つて仕舞ひました。自由主義の有産階級は最後の權利、即ち豫算の決議權さへも今や放抛する位い迄で損害を受けて居ります——是れは有産階級其の物にとつても重大なことであります。事態はかくの如き有様でありますのに、プロシヤ議會の多數黨である進歩黨は、政府と公然、斷乎として手を切ること宣言するだけの決心が着かないのであります、しかも彼等は單にベチャベチャ喋るばかりであります。政府と分裂するのは彼等の本務でありますのに、かゝる行動に出でず、以前として政府と同じ卓子に坐つてゐるのである。それでゐて元來彼等は政府は刑法の罪を犯すものであると主張し來つたのであります。

政府は憲法を破棄するものであると非難してゐながら、進歩黨は議會開催ごとに、憲法の修正を重ね、而して政府を援助し恰も立憲政體を維持してゐるかの觀を呈せしめ其の尊嚴を保たしめる様に努めてゐるのである。進歩黨は自分に弱點があるので、政府の共犯者となりました。従つて我々の堪忍袋の緒も切れて了ひました。

諸君！ 私は何故、もつと早く聲を高くして此れを責めなかつたのでありますか？ 一般に云つて眞面目な民主黨員及私は、民主黨の運動の代理を務めてゐる自由主義の有産階級運動は、結局此の悲惨な目に遭ふのであらうと信じて疑ひませんでした。我々はすつと以前から斯う云ふ状態に陥ることを豫期してゐました、併し我々は輿論を左右することの出来る事實が卓子の上に並べられるまで、堪へ忍んで待つてゐるのが我々の義務だと思つてゐました。

今日此の狀態に達したのである。今日此の有様の見えない人間は盲目か、でなければ自から其れを見まいとする連中でありませう。今日私が我々の結合を破棄せんとしてゐるのを見て、私を責問するとしたならば、其れは愚の骨頂である。若し結合が最高目的であるとしたならば、我々は恰度進歩黨の様に、専制主義者や軍閥と結合し互に抱擁するがよいのである。

目下の問題は、結合の根據は何邊に存するやと云ふことであります。薄弱な結合、無價値な結合、疲弊困憊の結合、かゝる結合は些かも役に立つものではない。

總ての強い分子に戦ひを挑んで是れを打ちまかし、而して彼等を強大な立脚地にまで拉し來つた方が遙かに有効であります。英國の自由黨新聞は悉く我進歩黨を認めてゐると云ふ事實を指摘して、たつた二ヶ月前人々は私を攻撃しました。たしかに此れは二ヶ月前のことでありました。

併し諸君は其の後の「ロンドン、タイムス」「デーリー、ニュース」に現れた記事を御讀みになりましたか？ 其の記事は最早我政府を攻撃せず我議會に非難の矢を放つてゐます、而して此の種の輕蔑を認容する議會は國民を低下せしめるものであると論じてゐます。私は其の記事の文句其の儘を茲に引用したのであります。諸君！ さうして見れば、私には罪はない。政治家としての私の資格には非難さる可き處はありません。二、三ヶ月後に總ての公平な人々が公然認めたる事を、二、三ヶ月前に私が認めたと云つて、私は攻撃される理由は有りません。

「有産階級が軍國主義の國家と鬭争を止めるまで、何故汝は待つてゐないのであるか」と質問されましたならば、私は「さう云ふ時期は永久に到來しないから、私は其の時まで待たないのだ」と答へます。

自由主義の有産階級は如何に戦つて見た處で戦勝を博することは絶對に出来ない。政治的自由を獲得する唯一の方法は、私が運動を開始しました此の時を如何に利用するかに在ります。私が御話ししてゐる間に諸君は段々信用されたでせうが、私は此の理由の下に時期を失してはならぬと云ふのである、私は其れに對して諸君の甚深なる注意を促がし度いのであります。我が自由主

義の有産階級は、私が申し上げました様に、軍國主義の國家と縁を斷ることが出来ない、而して鬭争に依つて政治的自由を享有することは困難であります。此の狀勢に處して第一に、亦最も弱點と思はれる理由は、有産階級は階級として、亦充分發達する以前に、存在を失なつて仕舞ふだらうと云ふことである。物が完成されるには「力」に待つ可きであります、物が完成されないのは全く其の「力」が無いからであります。併し是れはたいした理由ではない——私は諸君に或る事實に對して注意を向けて戴き度いと思ひます。

我國の有産階級は、一七八九年及一八三〇年代の佛蘭西の有産階級の様な勇氣を持つてゐるでせうか？ 有産階級は勇敢な行動に出でたでありませんか？ 微塵もそんな行爲はない！ ルイ十四世が佛蘭西の憲法制定議會を解散させやうとしました時、有産階級はミラポールの口を通して「我々は銃劍以外の力には決して屈服しない」と満場一致で答へました。處が一八四九年、フランスフォルト市で憲法制定議會が再び開催され、プロシヤ國王が其れに反對して議員を召還しました時、大多數の者は取る物も取り敢えず歸還し、唯少數の議員だけがストウツトガルトに移つて抵抗しました。國王の最後の手段は、前述の如く大砲であります。

併し我有産階級は、かゝる決心をするだけの氣力が有りません！ 政府を恐れるのみならず、國民に對しても恐怖心を抱いてゐるので、さうした決心を爲し得ないのであります。

今日でも猶有産階級は諸君を欺瞞して居ります、然し或事件が勃發したら最早瞞着の效能は無くなるでせう、而して有産階級は専制主義を怖れるよりも、諸君、國民を恐れてゐるのであります。此の爲に、有産階級は上から如何に足蹴にされても其れを忍従して、王座の階段の前に平伏し、依然として自分達の希望をかなうものであると主張してゐるのである。

私が私自身の言葉で相手方を云々しますと、其れは徒らに虚言を弄するものであると云ふ非難を享ける怖れがありますから、シュルツエ・デクツツ（註）の演説の一節を實例として引用しまして諸君に御目に掛けることにします。彼の演説は昨年十一月三十日、換言しますれば現内閣が既に任に就いた後、即ち憲法が敗壞された現狀に於て爲されたのであります。此の演説はフランクフォルトで話されたもので、彼を擁護する新聞「フォスイツシエ・ツアイトウング」（註）から私は其れを引用して來ました。歴史に特筆す可き國家の統一事業を推行する責任を獨逸國內で背負ふてゐるのはプロシヤ政府であると主張し、其の後でシュルツエ・デリツツは次の様な詞を

吐いて居ります。「嚴正な目的、政策なくして國民の運命を左右せんとする専制主義の時代は、今や既に過去のものになつた。確固たる精神に基いて君國主義の原理を把握し、其の原理をプロシヤ及獨逸全體の幸福の爲に適用せんとする偉大な人物が、プロシヤの王室の中から何れの日か出て來られるであらう。其の人物が唯れであるか未だ判然としないが、兎に角プロシヤ王室の中から偉大な人を生むと謂ふことは、國民の勇氣と忍耐に待つ可きものである。他の國と比較して見るのに、獨逸國民は革命と云ふ道は選ばない、其のかはりに平和に文明的に運動を起すと云ふ政策を執る。此の事實其の物は國民が子供の域を脱してゐると云ふことを物語るものである。」

（註）シュルツエ・デリツツ（一八〇八年—一八八三年）は反動主義の獨逸政治家にして經濟學者。

（註）「フォスイツシエ・ツアイトウング」一七二五年に創立されたる自由主義の新聞。此の種の新聞としては最も古きものにして、今日でも猶ベルリンで發行されてゐる。其の創立者の一人、クリスチャン・フリードリッヒ・フォスの各を取り、新聞に冠したのである。其の政策は自由主義を奉ず。

是等の詞は、議會から豫算の決議が剝奪され、而して陸軍編成議會が議會を無視して亂暴にも通過された後に、吐かれたものであります。事局は、原則上から云へば現在の狀勢と少しも變り

のない時に演説されたのであります。

國民を反動主義者の手に引き渡すのは誰れでありますか、プロシヤ専制主義に國民を委ねひどい目に逢はせるのは誰れでありますか？

かゝる軍旗をかゝげて諸君は行進してゐるのですか？ かゝる軍族を押し立て、諸君は専制主義や軍國主義の國家の様な強大な威力を打ち倒すことが出来ると思つてゐるのでありますか？ 彼等は政府の権力を借りることに望を繋いでゐるので、にえき心ない行動をとつてゐるのであります。國民を怖れる一方、政府に望みを持つてゐると云ふ様な有様で、何が出来るでせうか？

……の言葉を忘れてはいけない。

「俗物とは何んぞや？」

そは恐怖心に震え乍ら希望を抱く脹た袋なり。

神よ彼を憫み給へ。」

かゝる俗物の運動は、何等の効果を收め得るものではない、たとい數世紀の間巡遊し、亦我々は永久に生きてゐるとしても。

スバルタカスカサトゥルナリヤカ

同志諸君！ 十四年の長い間、我々は「自由黨」の進むが儘に任せて置きました……。前例なき克己心を養ひ、我々は萬事を避けました、我々自身が先頭に立つのを止めました、我々自身を要求を提出しませんでした、其れは自由黨をして何處までも民衆を左右して行く政黨であると世間に思はせたいからでありました。然し、此の政黨を自分勝手に振舞はせ、其れが國民の代表であるかの如く思はせて置きましたならば、此の十四年間徒らに待ち倦んだのはおろか、あと千四百年も待つた處で、其れは相變らず無結果であると云ふことが、今や世間に明瞭になつて來ました。自由に向ふ進路は。此等の弱蟲な連中の手に任かして置ては打開することは出来ないと思ふ事實が、少なくとも思慮分別のある者には今や明白になりました。考へを廻らしてゐる必要はない、我々は選擇をする必要はありません、我々は一步踏み出して從來の我々の主義主張を鮮明にする時期が到來したのであります、獨立した分離した政黨を樹立するにありません。實際今や

此れが我々の本務になりました、我々は外観から眺めて、屈從に甘んじてゐる様な政黨に歸屬してゐるのは到底我慢出来なくなりました、我々は自分の名譽を恢復しなければならぬ、國家の名譽を救済しなければなりません。

私にとつて此の動機は已むにやまれぬものでありますから、私が自分の提案をとつて唯一人立つたとしても、私は後悔する様なことは決してありません。然し私はたつた一人で孤立することはありませんでした。一人の人間が自分の主義主張を宣言するだけの勇氣を持つてゐれば、國民の胸からほど走る反響は數倍になつて彼の處に歸つて來ると云ふことが再び明白になりました。數千人の者が此の抗議に賛成して私に参加して呉れました、我政黨は其の結果出來たのであります。此れだけでも我々は大事業を敢行したのであります。後代の歴史家が當代の悲惨な歴史を綴る場合、「然し少なくとも數人の者があつて、其れが此の屈辱に義奮を感じ、而して立ち上つた」と書くであります。我々の行動の爲めに歴史家に「かゝる恥辱汚名に對して反抗する者は獨逸に一人も無かつた」と書かれずに済みます。

其れ以來起つた事件を観ますと、進歩黨の非常な弱點は前よりも一層粉飾しまして曝露せずにはゐません………………。コローンとローランドセツクに開催されましたラインの議會を第一に考へて見て下さい。是れは獨逸有産階級のスアウルナリヤであります。諸君は其の點をよく見なければなりません。コローンのみならず獨逸の各所に目を放つと共に、獨逸の新聞紙の新しい報道欄を見て御覽なさい——至る處諸君が讀んだり、見たり、聞いたりするのは、御祭りであり、御祭りの準備である、御祭りに行く議員の肖像であります。諸君は是れを何んと考へられますか？此等の偉い人々は表賞される必要があると思はれますか？國家の此の状態を見れば悲歎悔悛しなければならぬ時であるのに、彼等は祭典を舉行する！革命に成功した佛蘭西人が初めた祭りを、獨逸では敗亡を招いてをき乍らやつてゐるのであります。眞の鬭争を迴避する爲めに、彼等は御馳走の用意をなし、敗北者は酒杯と燔肉を前に置いて戰勝歌を唄つてゐる。實際此れはあべこべの話で、宛然羅馬のスアウナリヤに似て居ます。羅馬で其の奴隸は食卓に坐り、恰も主人の如く振舞ひました、其れと同じ様に、今日、敗戦者は祝賀の宴を催し、恰度自分達が勝利者の様な顔をして、立派ではあるが味のない勝利の焼パンを喰べて居ます。羅馬の奴隸はスアウナリヤの宴會をして、一日の空想的自由を享樂しましたが、其のかはりに丸る一年の奴隸生活を甘受

しなければなりません。其れと同じ様に、我が進歩黨議員は、勝利を頭で描いて祝賀し、眞の抗爭、本當の勝利を逃避せんとするものであると云ふことは、思慮ある人には誰れにでも判りきつてゐます。スパルタクス及其の一黨が奴隸開放の爲に羅馬で奴隸一揆の旗を押し立てた時、彼はサトウルナリヤ祭典以上の仕事をしました……………。

我政府が強力である秘決は、相手方の弱點をよく握つてゐるからであります。勿論かゝる相手をあしらつて勝を制するのは恒に困難ではありません……………。政争をなすに當つて、進歩黨員は全然無能力であります。身を投げ出して自己の重要な地位を守るこの出来ない政黨——かゝる政黨はどんなことをしても勝つ見込みはない。かゝる政黨は再び新しい攻撃を受ければ、逃げ出すより外に途は有りません。

かゝる政黨、かゝる新聞は、政府突撃の音が背後に聞へれば、手も足も出ますまい。自分の居宅を守る能力のない者は、生存する権利がありません、生きる資格がありません！

攻撃を享ける度に逃げ出す人間、新たにたぐられると拳を固めて立ち向はずに、背を出して敵の思ふ儘にさせると云ふ戰士に對し、我々は興味を持つことが出来ますか？

斯うした光景を見ては、我々はさう云ふ英雄を輕蔑し、嘲弄し、嫌惡し、惡罵するより仕方がありません。此の種の徒輩の目的は、高遠になり純粹になればなる程、彼等は高遠な目的に對して男らしい行爲をしなくなりますから、我々は益々彼等を侮蔑するに至るのである。進歩黨員の活動は段々狭められて來るので、終いには一握の人間を左右することしか出來なくなるでせう。かくの如き敷衍かはしき、侮蔑す可き目的は、悲しむ可く賤しむ可き結果しか生むことが出來ない。唯偉大なる理想、偉大な目的に對する熱情のみが、信仰と犠牲と豪膽を生むのであります！

階級闘争

五四

自由主義の有産階級は何故に我國に政治的自由を齎すことが出来ないかと云ふ眞の理由を、私は今御話しし度いと思ふのであります……………。一八四八年以來、我々は角面堡の次に角面堡を失ひ、陣地に次ぐに陣地を失ひ、約言すれば一八四八年に手に入れたものを悉く喪失して仕舞ひました。其れ以後の十五年間の歴史を見ますのに、其の間の事件は偶發生のものでないと云ふことが判るでせう。此の期間の事件は内面的動機があり、其の結果必然に起つたものであります。

私は今諸君に此の由つて来る所以を説明せんとするのであります。

一八四八年以來の獨逸史、一七八九年以後の佛蘭西史は此の原因に依つて説くことが出来るでせう。

我獨逸の自由主義を奉ずる有産階級は、佛蘭西のそれに比較して勇氣が缺けてゐたと云ふ理由は、單に國民性が相違してゐると云ふばかりではありません、もつと深い原因があるのであります。

す而して政治的自用を達成する唯一の途は、今私が高く掲揚してゐる軍旗の下に集まると云ふことであります。

其の理由は斯うである。政治的自由を要求する背後には、物質的利害關係、階級の利害、従つて階級觀念が潜んでゐなければなりません、是れのない政治的自由運動は決して成功するものではない。

慥かに自由主義の有産階級は自由を愛してゐる、然し其れは室内の裝飾品を愛するが如く、或は贅澤品を愛するが如く、或は贅澤品を愛する様に自由を好愛するのであります。それが出来なければ、無くとも生きて行けるのである！ 彼は此れを取得する爲に水火の中に身を投ずるも辭せずと云ふ勇氣はない。無産階級の求むる主要な物は、物質的利益、商買と慣習、産業と生産であります。併し是等のものは平和でなければなりません、而して自由の爲に激闘するのは暫くでも此の平和を攪亂することになります。此處に於てか自由主義の有産階級は平和を危からしめ、従つて自由の爲の激闘に依つて物質的利益を喪失するよりも、むしろ政治的自由を放棄したが優しなのである。

五五

政治的自由を要求する其の背後には誰れが立つてゐるのであるか、如何なる階級が控へてゐるのでせうか？ 多分夫れは労働者でありますか？ 然り労働者である、數週間、數ヶ月の間は、労働者の勇敢豪俠な精神に依つて持ちこたえられるのであります。でありますから労働者は再三再四其の爲に一時、戦ふでせう、而して一時の勝利は博するかも知れませんが、一八四八年三月の様には併し永い間、労働者も亦單なる政治的自由の爲めに闘ふことは出来ない。其れは不可能であります。毎日の賃銀を得る心配、自分と家族の生活を維持して行く苦勞の爲に、彼等は他を顧みる暇がない、労働者は單なる政治的自由を得る爲に自分の飢餓を犠牲にするわけにはゆきません。其處で彼が抗争を罷めなければならぬ羽目になるのは當然である、而して相變らず事物は成るが儘に放任されるのであります。佛蘭西の有様を一瞥して御覽なさい。佛蘭西の歴史に現れたる一大矛盾、即ち一七八九年の革命と一八五一年のナポレオン（註）のクーデターと如何なる關係にあるかと云ふことが、私の説明に依つて判然されるだらうと思ひます。

（註）ナポレオンとはルイ・ナポレオン（一八〇八年——一八七三年）を指す。第二回佛蘭西共和國の大統領にして、後佛蘭西皇帝となる（一八七一年まで）。カール・マルクスの「ルイ・ボナパルトの二月十八日」

は一八五一年のナポレオンのクーデターを取り扱つたものである。

一七八九年の革命は單純な政治革命ではありませんでした、夫れを政治革命だと云ふのは大變な間違ひであります。其れは社會革命であつた、危胎に瀕する物質的利害の革命でありました。有産階級の仕事は工業界及農業界に於ける封建的制度を破碎し、其の換りに今日至る處で威力を振つてゐる制度、即ち自由なる資本の利用を確立せんとしたのであります。此の目的を目指して元氣を振起し、火を放つたのであります。

其れは社會革命でありました、而して一七八九年と、一八三〇年に倒壊せんとしてゐた社會的物質的利害に對し革命を起したのであります。現在ナポレオンが佛蘭西を支配してゐるではありませんが其のナポレオンが再び生産の封建制度を恢復し、亦有産階級の物質的利益を侵害する怖れは有りません。換言すると彼等はナポレオンの爲に單に政治的自由を侵害されまいとしてゐるだけであります。事態かくの如くでありますから、佛蘭西の有産階級は獨逸のその様に虚弱になり、倦怠して仕舞ひました、而して政治的自由を奪取されても冷然としてゐます。十二年間に亘り事態は此の方向に進みつゝあるのである。

今日我國の鬭争の目的が、一七八九年佛蘭西に於ける有産階級の社會的自由、即ち此の自由問題の中に抗含されてゐる資本及總ての物質的利益の自由を獲得するにありましたならば、我有産階級も佛蘭西のその様に、怖らく元氣に活動したかも知れません。然乍ら、此等の物質的問題は最早論議する必要がないのである。我政府は前以つて自ら準備をしました。少なくとも一部分ではありますが、政府はずつと以前に一七八九年の革命の社會的方面は是れを實施してしまいました、従つて單なる政治的自由だけでは有産階級も熱心の度を高かめるわけにゆかない、而して彼等は人道的な言葉を弄し美辭麗句を列ねるに過ぎないのであり。單なる政治的自由の要求では如何なる階級も此れが味方をしない、亦味方をする事が出来ないと私は主張るのであります、諸君も是の點には賛成させることと思ひます。

併し此の要求は軍閥と貴族、專制主義と官僚主義からは反對されます、此の要求に對し彼等は絶大な勢で反對する、彼等の社會的利益に關することでありますから極力反對するのであります。此の反動政策は非常に有力な或種の階級が援護してゐるのである、而して其の階級は暴力に訴ふるのも辭しますまい。處が是れに反して政治的自由を要求する方の側は、如何なる階級も援護せ

ず、唯一握の理想主義者と感情的な熱狂者が擁護してゐるだけであります。でありますから過去十五年に互つて政治的自由が反動主義者の足下に蹂躪されたのも怪しむに足りません。かゝる事情の下に置きましたは、有産階級は全く無力でありますから、軍國主義の國家と争つて見た處で勝味は到底ありません。

政治的自由獲得運動に最も必要なものは、一つの階級の利害、一つの社會的利害關に依つて其れが援護されてなければならぬと云ふことであります。而して若し出來得るなれば他の階級よりも數に於て勢力に於て遙かにまさつてゐる無産階級が勿論擁護する必要があります。

政治的自由を愛するものは、此の説明に對して私に感謝しなければならぬ、何んとなれば純然たる政治的自由は此の方法でなければ獲得することは出來ないからであります。

諸君！ 或者は私が反動主義の手足になつてゐると云つて責問しますが、其れが如何に誤つてゐるか云ふことは今諸君に判られたであります。其れは實に間違つてゐると云ふばかりではありません！ 實際そんなことに對して自分の人格を辨護するのは自分の身を賤しめるものであります……………。

是れに依つて此れを見るに、此の非難は事實と相違してゐるのみならず、其の間違つてゐることとは私を攻撃する者もよく認めてゐるのである。私に言はせれば、彼等は自覺しながら恥も外聞もなく事實を變造してゐるのであります。自由主義の有産階級は私が反主義に感染したからと云つて、驚きません。けれども其れと反對に、私が數年の間、實行し來りました教育事業は、反動主義に最も強く反抗するものでありますから、其れを怖恐してゐるのであります。

私の團體に加盟する五十萬人の獨逸の勞働者がありましたならば、——我國の反動主義は過去の産物になるでせう。獨逸の有産階級は此を知悉してゐる！ 彼等か私に怯えてゐるのは此の爲であります。でありますから、彼等は滅茶苦茶に憤激して私を攻撃するのである。自由主義の有産階級は私が一生懸命に政治的自由を要求してゐるので、彼等は私が反動主義の御用を足してゐると云つて私の罪を鳴らし立てるのであります。

我々と進歩黨との分裂は最早逃避することはできない。其の分裂は麥と稗とを分ける様なものであります………………。此の破綻は實在である。此れは最早や政策や便宜を考慮してゐる時ではありません。進歩黨に屬する者は、自分の良心に訴へて各自は麥であるか稗であるかと云ふことを

今や自問しなければなりません。

(註) 茲に進歩黨と譯したのは、フオルトシュリツツバルティを差すのである。一八六一年にプロシヤに於て結黨式を擧げたる自由主義の政黨である。一八六六年までプロシヤ議會で多數黨たる地位を占めてゐた。一八六六年國家自由黨が其れから分れて組織された。

反動主義者ラッサーレ

一八六三年十月十四日全獨逸労働組合の名に於てなされたる演説。

「國民新聞」と「ベルリン改造」誌が、私は反動主義者の手足であると前代未聞の勢で最近宣傳してゐるのを諸君はお聞きになりましたか？ 而して此の淺間しい無法な捏造記事を読んで、實にけしからぬ此の欺瞞は諸君に對抗する爲に作つたものであると云ふことを悟られましたか？

ベルリンの労働者諸君！ 私は此の欺瞞の根本を諸君に明示し度いのであります。進歩黨の有産階級は私が反動主義に感染したと云ふのではなく。私が革命を起すだらうと云ふことを怖れるが故に、私を嫌ひ、私に喧嘩をしかけるのである！ 彼等の眼から見れば私は反動家ではない、併し私は彼等の眼に革命家と寫るからであります。革命家であると云つて非難される場合には、其れは眞實でありますから私は自分の魄に誓つて、幾度か其れを肯定しました。何時かゝる攻撃

を享けましても、私は公會の席上で、私の仕事の上で、私の演説中で其れを承認しました。裁判所でも私は再三再四其れを認めました。

繰返して言ひますが、進歩黨員は彼等の實質上私を嫌ひ私を敵にしてゐるのであります、しかるに彼等は何故正直に其れを宣言しないのですか？ 此れと反對に、私が反動主義者の御用を受給はつてゐると云ふ中傷的な言葉を何故彼等は始終諸君の内に流布してゐるのでせうか？

其の理由は甚た明白である、其れは下賤極まつたことであると共に、實に明白である。

進歩黨員は諸君の目前で、私を革命家であると責めるわけにゆかないのであります。

諸君を前にして、彼等が私に對して憤激してゐる本當の理由を明らかにし、而して私を責めるとしましたら、其の結果諸君の大衆は一層固く私と結合すると云ふことを彼等は心得てゐるのであります。其處で此等の偽善家は鉾を他の方面に向け、諸君の前に出ると私を反動主義者の味方だと云つて咎めるのである、其れは私が革命家であるのを好まないからであります！

労働者諸君！ 本當の人間である諸君、肯定す可きことを明かに肯定し、否定す可きことを明かに否定する諸君、諸君此の改良主義の風見と提携して何をするのでありますか？ フランク

フオルトで汎獨逸主義者の間にある時には改革法案に賛成し、ベルリンでプロシヤ主義者の間にある時には改革法案に反対すると云ふ輩と、諸君は何が出来ますか？ 八月黒黄旗に味方するかと思へば、十月の黒白旗に媚を呈すると云ふ様な網渡りと共に事が謀れますか？ 彼等は突風に見舞はれないでも方向轉換をやるのですから、風見よりも下劣である、かゝる人間と相結んで諸君は何が出来ますか？ しかるに作年の八月以來、獨逸の王公は獨逸問題に對して少しも態度を變へてゐない、獨逸の王公は何等新しい政策に出でゐないのでありますから、進歩黨が其の爲めに政策を變へたと云ふ口實には成りません。

最も重要な國家問題を調理するに當つて、彼等は自己の希望する處を知らない、従つて諸君の要求す可きことを諸君に告げる方法がないのである、かゝる連中と諸君は何を爲さんとするのでありますか？ 國家としての我々の全存在を如何にす可きやと云ふ秋に臨み、一つの主義を樹てることの出来ない人間が、諸君の役に立つのですか？ 子供の如く、偉大な人物の眞似をするのを好む政界の子供と道伴れになつた處で、諸君は何が出来ますか？ 彼等は國民政策と王公の外交術とを混同してゐる、而して掛引きの上で鋭敏に立ち廻らうとしてゐる結果、八月には自分達

は聰明だと思ひ込んでゐたのに、十月には非常な愚劣さを曝露して了つた、しかも未だ或事になると十月にやつた行爲は、八月の愚行に勝ると考へてゐるのであります。かゝる人間を相手にして成功を博することが出来ると思ひますか？

労働者諸君！ かゝるつまらぬ精神の人間と協同して自由の爲に大なる貢獻をすることが出来る、諸君はどうして信じ得ますか？ 我等の前に横はつてゐる障害物は、主義を堅く守つて進んで行つてこそ征服することが出来るのである、しかるに諸君は彼等と提携して此の障害物を乗り越え得ると思つてゐるのでありますか？

しからば、諸君は何の爲めに我々の團體に加盟するのを躊躇してゐるのでありますか？
ベルリンの労働者諸君！ 其の他我々の社會的計畫、即ち我々の社會的地位を改善すると云ふ理由がありますのに、諸君はなぜ此の手段を選ばないのでですか？

労働者諸君！ 諸君は自分の利益に對して狹量盲目であり、其の結果諸君の階級的地位が不公平な取扱ひを受けてゐるのも認めず、亦其れを改善するの必要もないと思つてゐられますか？

黒赤金色旗か黑白赤旗か？（註）

議會に議席を持つてゐる國家統一黨員、及進歩黨員は、一八四九年のフランクフルトの帝政憲法を固守せよと恒に主張し、其の憲法は法律の根本であり獨逸國の守護神であると云つてゐます。

私は最初に誤解を一掃して置かなければなりません。フランクフルトの帝政憲法を改訂するのは私の意見ではない、我々の見解とは一致しません。我々の眼から見れば、フランクフルトの帝政憲法を再立しやうと云ふ企圖は、反動主義者のユートピヤに過ぎない。我々の斷ずる處に依れば、フランクフルトの帝政憲法は一八四九年に其れが採用された時既に、聯邦主義の無能さを最後に曝露したものでありました。獨逸の統一、三十四の異つた獨立國を保存して置き乍ら其の一方に統一された中央主權國を擁立しやうと云ふ考へは、其れ自身の中に矛盾があります、白い着物を黒い着物として通用させやうとするのと同様で、不可能である。主權の存する處が王

公にあるか、國民にあるかは是れを暫く問はないとしても、主權は其の性質上不可分であります人間の靈魂の様に不可分であります。

若し吾人が獨逸の統一を口にするならば、我々が最も必要なりとする事は、是等の三十四の獨立分裂した主權を停止し、其れを一つの主權に結合することでありませう。フランクフルトの帝政憲法がたつた一日しか命脈を保ち得なかつたのは此の爲めであります。其れが紛碎された理由は、進歩黨員が信じてゐる様に、當時として余りに進歩しすぎてゐた革命的要素の爲ではなく、却て反動的要素の爲であります。フランクフルトの帝政憲法が倒滅したのは、改良が過ぎた爲めではなく、余りに多くの古い分子を保持してゐたからであります。統一された主權の中に三十四の主權を存立せしめんとする前述の論理的矛盾の犠牲となつて、其の憲法は破れたのであります……。

故に、我々にとつては、フランクフルトの帝政憲法を再建せんとする思想は、反動主義のユートピヤに外なりません。此の憲法は内面的に矛盾を抱藏してゐるのでありますから、過去に於てさうであつたのと同じ様に、未來に於ても存立することは不可能である、此の理由から推察す

ると其れは一つのユートピヤである——殊勝げ見える希望にすぎません。若し吾人が一八四九年に試みにやつて見て失敗したことを再び繰り返さうとするならば、此れは一八四八年來の我全歴史が我々にとつて全然無意義無精神なものであると云ふのと同じでありますから、其れは反動主義であります。我々の意見に従へば、フランクフォルトの帝政憲法の倒滅は、其れが内的矛盾の當然の結果であり、亦無能なる聯邦主義の最後の證差であります。——我々の見る處に依れば此の十四年間の歴史は、高價な代償を拂ひましたけれども、意味があります、偉大な意味があります……。

一方に於てヘール・フォン・ビスマークは進歩黨はプロシヤを裏切るものであると惡罵し、亦他の一方に於て汎獨逸の機關は進歩黨は頭にプロシヤを戴かんと云ふ考へを秘密裡に持つて行動してゐるのであるから全獨逸を裏切るものであると主張してゐます。諸君！ヘール・フォン・ビスマーク及汎獨逸主義者の主張は兩者共に正しい、是れは最も重要な點であります。何んとなれば進歩黨は各方面から好かれ度いと思つて、總てを裏切り、一見不可能な仕事をやつてゐるからであります。彼等は萬事を擁護すると同時に、萬事を否定する！

此處に於てか我々の眼から見れば、プロシヤの憲法は國民に對抗して作られた法律破壊の實證であり、其の生産物であります。其れは適法に存在するものでなく、亦價値もなければ利益もありません。我々にとつて、此の二つの政黨の争は深い關係は有りません、何んとなれば反動主義者も進歩黨も我々には等しくあかの他人でありますから。

此の争の全體の目的——プロシヤの憲法——は我々には興味がないのでありますから、此の争に對して我々は主義上の興味を持つことは出来ません。我々がプロシヤの憲法に興味を持つとしましたら、其れは出来るだけ速かに其れが滅失するのを希望することでありませぬ。

(註) 黒赤金色旗は一八四八年フランクフォルトの議會にて定められたる國旗である。其れは政治上の自由と進歩を表象したものであつた。黒白赤色旗は一八七一年以來の獨逸の國旗である。従つて其れは帝政的な國家主義的な表象である。

未 來 の 曙

七〇

佛蘭西に於て存立し得なかつたもの、——其の當時全く倒滅したものは、謂ふ所の共和制體ではなく、一八五〇年五月三十日附の選舉法で普通選舉を廢止し、而して労働者を除外する爲めに暗々の裡に資本家的色彩を加味した其の共和制體であります。有産階級を基礎にした此の共和主義者は、共和國にさえも資本階級の色彩を加味し、資本の優越を謀らうとしました。倒滅したのは此の種の有産階級を基礎にした共和制體であります。佛蘭西の政權潛奪者は、此の機會を把て普通選舉制を施くと云ふことを口實にして共和制體を覆えしました。而して此の共和制體は佛蘭西の労働者の胸に、牢固として抜く可からざる惡感情を植え付けたのであります。

佛蘭西で實際に維持出來ず、其の爲めに崩壊したのは、所謂共和制體ではなく、有産階級の共和政體であります。従つて此の事情を眞面目に研究すると、此の前例に鑑みて、一八四八年以來我々の取る可き路は、君主制體か共和政體の何れを問はず、社會の第三階級（有産階級）の政

治的色彩を多分に加味した國家であつてはならぬと云ふことが判明するでせう。

諸君、科學の高き望樓から眺めますと、混沌たる日常生活の中から、最早直きに新しき日の赤き曙光が現れて來るのに氣付くことが出來ます。

諸君！ 諸君は高山の頂から太陽の昇るのを拜したことがありますか？

遠くの水平線が紫の色でふち取られ、其れに新しき光を告げる赤血の様な光線がさして來る。やがて煙霧立ち昇り、其れが凝結して大きな堤防となり、薔薇色の曉天を被ひ、暫し光りを隠します。併し地上の如何なる力も太陽が除々に堂々と昇天して行くのをさまたげることには出來ません。一時間も経つと、太陽は天空に光りと熱を放散しつゝ輝き初めるでせう、而して四方を照らすでせう。

此の一時間は毎日繰返される自然の偉大なる光景であります、而して此處十年二十年は歴史上の曙であり、一層偉大な光景を呈するのであります。

革命を起す權利と労働者の義務

我々總ての労働者は、何とかして人類社會の爲めに盡さうと云ふ意志を持つてゐます。此の第四階級は心の底に新しい特權を握らふなどと云ふ野心は持つてゐない。でありますから、此の意味から言ひますと、第四階級は全人類と云ふ詞と同意語であります。従つて其の目的は全人類の目的である、其の自由は全人類の自由である、其の支配は總の人間の支配であります。

故に、労働階級が社會の主要な力であると考へてゐる者は、私が今諸君に説明しました様なわけで、社會を階級に依つて分割せよと云ふ主張はしますまい。彼は協調を叫び、總ての社會の抱擁を叫び、社會階級對立の廢止を叫び、萬人は結合して特權及特權階級の國民に對する壓迫に反對せよと叫び、愛を求めて絶叫するのであります。一度會て國民の心から生れ出でんとしました此の愛の叫びは、永久に國民の眞のスロガンとなす可きものであります、而して其の内容から申しますと、國民が突撃の喊聲を擧げてゐる時でも、其れは愛の叫びであると云えるでせ

う……………。

確かに無産階級にも其れが本來の面目と異つた利己的な處が未だあります。然し此の場合に現れは利己心は個人及或種の人間の欠陥でありまして、第四階級の根本的欠陥ではありません。労働者は誰れでも自分のことばかり考へ、自分の爲めにばかり働いてゐる間は、自分の境遇を根本的に改善する望みはないと短見な者でも無産者に話すでせう、無産階級は階級としての自分等の境遇を改良し、階級としての自分達の運命を改良したならば、其れは結局自分達の利益を増進することになるでせう。歴史的傾向に反抗すれば、社會的不徳をはたらく様になる。無産階級は全人類の進歩、理想の勝利、文明の發達、歴史の生活的意義を目標にして進んで行かなければなりません。前述の如く我々の目的は全人類の目的であります。

其れ故、——新しき思想に耳を傾け——自分自身の私的利益を推し進めて行けば、諸君は其の新しい思想を實現出来る幸福な地位にあるのであります。諸君の本當の個人的な利益、最善の利益は生氣激刺たる歴史と一致し、道德進化の生命力と合致す可き幸福な地位に諸君は置かれてゐるのであります。諸君は社會の進化を私的な立場から熱望しなければなりません。

ん。我々が茲で説明しました様なわけで、此の感情が強くなればなる程、諸君の地位は一層堅固になるのは疑ぶ余地がありません。

でありますから、第四階級が主權を握れば、國家の道德、文明、科學は前代末聞の隆盛の域に達する筈であります。

有産階級の道德觀からしますと、個人は自分の力を自由に發揮する絶對權を持つことになりま

す。
若し我々が悉く同じ強さ、同じ智識、同じ教育、同じ富を持つてゐるとしましたならば、此の考へは立派な道德觀でありませう。

しかるに、我々はかゝる平等の地位に立つものでなく、亦其れは不可能なことでありますから此の思想は不完全なものであり、其れを實行した曉には、必ずや非常な不道德な結果に陥ります。何故なれば其の結果は、強き者、智識ある者、金のある者は弱者を利用することになり、亦強者は弱者を自分のポケットに収めることになります。

處が勞働階級の道德觀からしますと、個人が自分の力を自由に發揮するだけでは充分でありま

せん、此の外、道德的に秩序整然たる社會に於ては一致共同して利害の處理を考へ、共同に物を處有し、互に相扶けて進化發達をはかると云ふことが無ければならない。

此の相違から押して行くと、有産階級は國家の德義上の目的を、個人の身體の自由及私有財産擁護の義務に在ると見てゐるのであります。

諸君よ、是れは警察官の思想である、警察官の考に従つて國家を創造して行かうと云ふ警察官の思想であります、而して其れが唯一の機能は盜賊を防壓しやうと云ふのであります。遺憾乍ら此の警察官の考へは自由黨員に特有なものでなく、多くの民主黨員の中にも充分心の訓練が出来てゐないので、かゝる思想を抱いてゐる者があります。有産階級が此の主義を最後まで貫徹して行きますと、若し盜賊がゐなくなつたら、國家は全く其の存立理由を失ふと云ふことにならなければなりません。

勞働階級の思想に基いて國家を支配して行くと云ふことになりますと——今までの總ての國家に於ける様な——國家は其の日暮しに事を處して行くと云ふことはなくなります。國家は明白に亦充分自覺して此の道義上の特質を自己の主要な仕事とする様になるでせう。國家は今迄場當り

に一定の主義を持たずにやつて行つた事を、勇敢に終始一貫して推行するに至るでせう。此の意味から云つて、國家は精神を向上せしめ、幸福、文化、安寧、自由の總額を増加せしむる譯になります。其れは世界の歴史に比類なき處である。かくなつた時代に比較すれば往昔の黄金時代もまことにつまらぬものになつて仕舞ます。

勞働階級に屬するものは誰れも彼れも、私が今言ひました事をきつかけにして、全く新しい態度になるのを自分の義務とする様に心掛けていたとき度い。

勞働階級は支配階級たる可きものである、此の階級の主義を其の時代の主義になる迄向上せしめる、其の思想を全社會の主要な思想たらしめる、社會を勞働階級の模範にのつとつて改造する。是等のことを自覺する位い或階級に立派な深い徳義心を與へるものはありません。

諸君は岩石であります、其の岩石の上に未來の寺院は建てられるのであります。

大審院に於ける辨論

「公然と無産者を煽動し、有産者を嫌疑侮蔑させやうとした」と云ふかどて告訴されたのに對し、大審院に於て自己辨護の爲めにラツサレーがした演説。

私が喋りました最初の部分で、中世紀の事を論じ、ギルドの廢棄は獨逸議會では一六七二年以前に、佛蘭西のエタジエネロー(註)では一六一四年以前に要求されてゐたと私は言ひました。私が前に述べました様に一七七六年改革主義の大任テウルゴは佛蘭西でギルドを廢棄しましたが、國王は特權階級に騒がれたので、數ヶ月後自分の勅令を引込めなければならぬ羽目になりました、而して遂にバステイユを襲撃した結果、殆んど二世紀もかゝつて獨佛で實現し得なかつたことを、たつた一日で成功させて仕舞ひました。

(註) エタ、ジエネローと云ふのはオランダ、及佛蘭西革命期の立法部の名稱である。佛蘭西では國家危機に臨んだ時にのみ是れを召集した。是れは國民の各階級の網羅した立法部で、地方的(プロビンシアル)

に對して一般的（ヴェネロー）と云つたのである。

（註） テュルギー（一七二〇年——一七八一年）。佛蘭西革命以前の大藏大臣。

此れに私は次の様な客觀的な歴史的觀察を附言しました。「でありますから、合法的方法に依つて改造を行ふ利益は非常に大きなものであるかも知れないが、併し此の方法は——重要な事柄に關して——時によると數世紀間何等の効果を收める事が出来ない」と云ふ様な不利益な點もありません。是れに反して、革命は避く可からざる欠點があるかも知れませんが、迅速に實際的な結果を生むと云ふ利益があります」。

全く客觀的歴史的觀察に基いて、私は公平に革命の利害得失を明かにし、亦中世紀の歴史上の實例をとつて是れを證明した、處が判事長は之れを楯にとつて私に罪を宣告されました。判事長の判斷に依りますと、私は適法手段を執らずして革命手段を選び、而して其の結果、私は革命によつて現代を處理し其の目的を達せんとするのであると云ふのであります。従つて私の胸底には現在勞働階級に革命を起させやうと云ふ考へがひそんでゐると云ふのです、——此の斷罪理由に基いて宣告を享けました刻き、私は自分の眼を信ずることが出来ませんでした！

たとい此の論理を肯定するとしても、其れは國家に對して革命を起すと云ふ點で起訴されるだけで、國民に嫌忌輕侮の情を起させたから起訴すると云ふ理由にはなりません、併し此の事實は暫く是れを論じないとしても、かゝる推論に基いて求刑されたと云ふことは、正義の原則を明かに侵害したものであります、此の點を判事長は氣付かれませんか？

是等の推論は全く誤謬であり、亦人を欺くものであります。是等の推論は詭辨であります、其れが不完全極まるものである事は、私の控訴理由書中に、甚だ簡短ではありますが明白に書いて置きました。

かゝる結論は實際は正しくありませんが、若し是れを正しいものであるとしても——判事長はかゝる推論を勝手にやる権利を持つては居りますまい？ 判事長は私が云つは言葉だけに就て判斷を下す権利はありますが、神聖なる私の思想の自由を侵害する権利はありますか？ 私の言葉から推論して、かゝる思想が私の胸底に潜んでゐると云ふことは言へるかも知れませんが刑事裁判處で私が云はなかつた事を裁判する譯にはゆきませぬまい？

此の裁判は最も神聖なる正義の原則を侵害するものである、而して正義が全く無視されてゐた

時代でも、かゝる侵害は前代未聞のことです。私は是れに對して非常に驚てゐるのであります。

佛蘭西革命の時の「驚怖時代の裁判處」で、正義に反する大罪なりとして罪せられた裁判事件を、保守的な歴史家が書いて居ります。其れは、「我國王、リシヤール」と云ふ歌を唄つたので罪せられたと云ふ求刑事件であります。

さて「判事長は私の口から聽たのではなく、私が心の底で「嗚呼、革命の女王よ」と云ふ歌を唄つたのを聞いたと云ふ理由で、私を求刑しました。

裁判官の意見と私の意見との開きが大きいと云ふことは、是れを隠蔽することは出来ません。たしかに、私は諸君が希望しない事を希望し、諸君が希望する多くの事に反對してゐます。

然し乍ら、法律の範圍で是れを左右することが出来ますか？

我々が希望してゐる事柄にも相違がありますが、我々の信じてゐる事柄の方が其れよりも一層相違してゐます。

第一審で辯護しました時、私は既に革命と云ふ言葉の科學的意義、即ち私が此の言葉に對して

附してゐる意義に就て陳述しました。

私が此の言葉に對して與へてゐる定義は、古き社會を破壊して新しき制度を樹立すると云ふだけのことである、其れは暴力に訴へることもありませんし、訴へないこともあります。

此の意味から云つて、私は將來何れにしても革命が勃發すると信じます。

若し人間が聰明で適當な時に上から革命を起すだけの決心がありましたならば、革命は全く適法に、亦目出度き平和の裡に實施されるでせう、でないとする——或る指摘し得る時期に——恐ろしい勢で旋風の様に、或は足にかねの草鞋をはき髪を振り亂した暴女の様、革命はやつて來るであります。

此の二つの中の何れかの方法で、革命は襲來するでせう。其れに就ては疑問を挿む余地はない。私は一日の騒がしさから離れて、歴史の研究に没頭しますと、私は革命の使の足音の響いて來るのを聞くことが出来ます。

昭和三年九月十五日
昭和三年九月二十日
昭和廿一年七月十五日
印刷發行
再版

勞働者に激す

定價金六圓五拾錢



譯者 岡田忠一

發行者 東京都下谷區上野櫻木町二三
中村德二郎

印刷者 芝區三田松坂町三五
吉田博雅堂

配給元 東京都神田區淡路町二ノ九
日本出版配給統制株式會社

發兌

東京都下谷區上野櫻木町二三
振替東京二五四〇〇番

白揚書館

日本出協會員番號A二〇八〇一四
電話下谷(83)一二三九番

白揚館行 革命家演説集

レーニン著 岡田忠一譯

働かざる者は食ふ可からず

定價五圓五十錢 送料卅錢

ソ聯建設の大抱負
土地問題其他數篇

ロベスピエール著 内田佐久郎譯

革命の原理を守れ

定價六圓五十錢 送料卅錢

フランス革命の原理
皇帝を死刑とせよ!

ラッサルレー著 岡田忠一譯

労働者に激す

定價六圓五十錢 送料卅錢

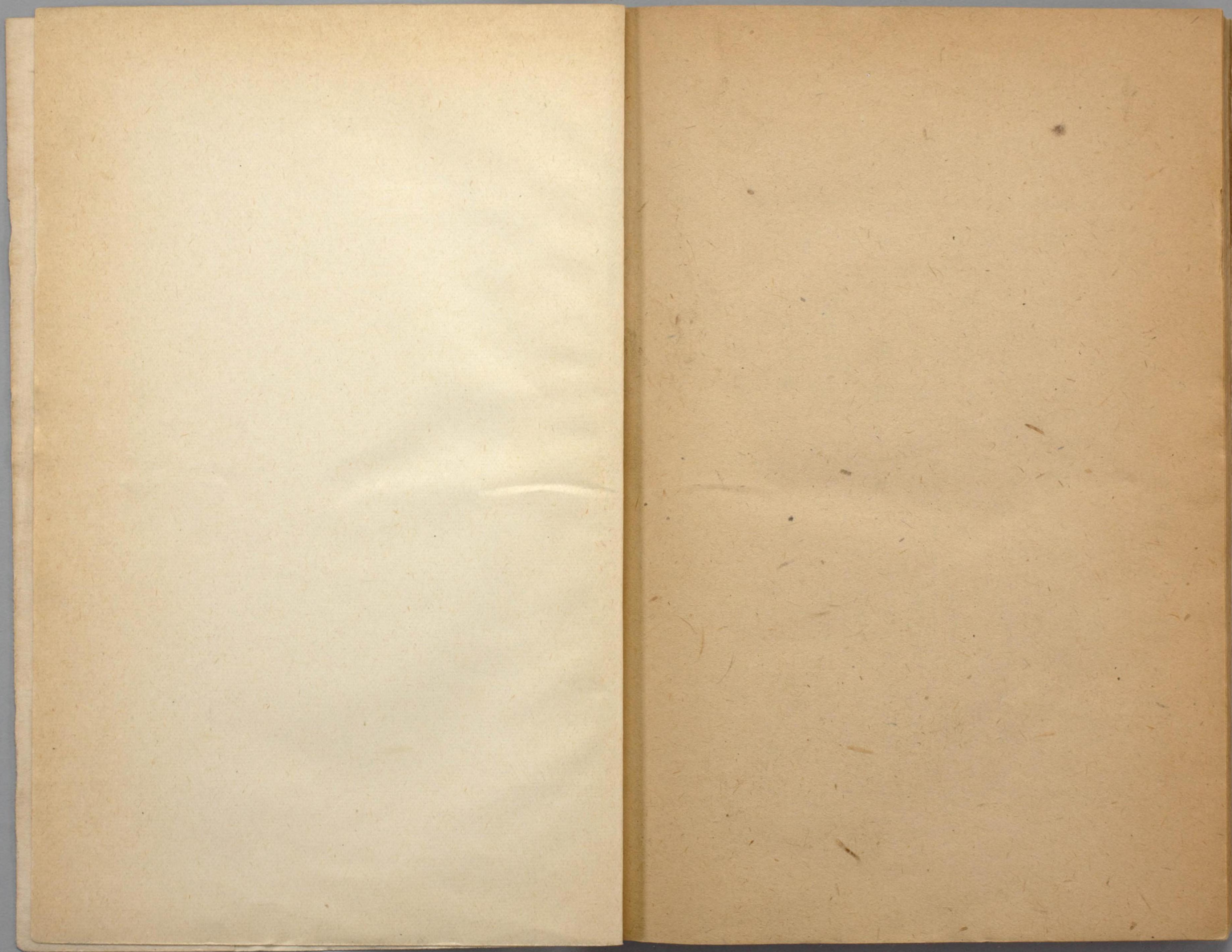
憲法問題・食糧問題・
其他に對する提案

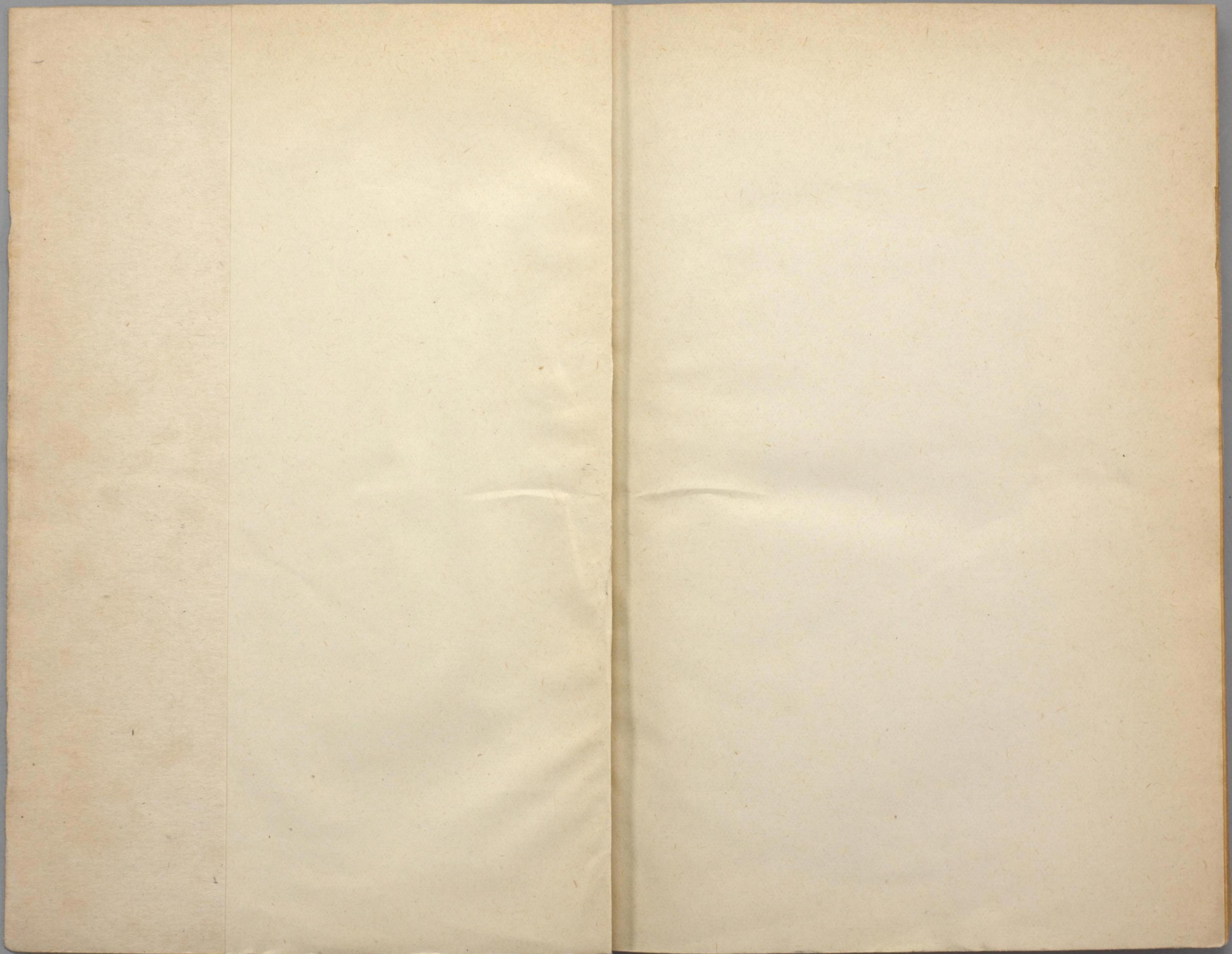
孫逸仙・毛澤東著 清原不毛譯

三民主義と其の發展

定價五圓五十錢 送料卅錢

支那革命の諸問題
建設の根本的方策





¥ 6.50

白揚書館